

2021 年 7 月

食料安全保障月報 (第 1 号)



令和 3 年 7 月 30 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021 年 6 月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月 1 回、月末を目処に公表します。

2021 年 7 月食料安全保障月報（第 1 号）

目 次

概要編

I	2021 年 7 月の主な動き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	「緊急事態食料安全保障指針」における「早期注意段階」の適用について	
II	2021 年 7 月の穀物等の国際価格の動向・・・・・・・・・・・・・・	5
III	2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント・・・・・・・・・・・・	5
IV	2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント・・・・・・・・・・	5
V	今月の注目情報 高温乾燥の影響を受けた米国の穀物需給・・・・・・・・	6

（資料）

1	穀物等の国際価格の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 0
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移・・・・・・・・・・・・・・	1 1
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）・・・・・・・・・・	1 2
4	FAO 食料価格指数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 4
5	食品小売価格の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 5

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	＜米国＞ プレーンズ北部の高温乾燥の影響で春小麦減産見通し	
	＜カナダ＞ 作付面積減に加え高温乾燥で減産見通し	
	＜豪州＞ 降雨に恵まれ、初期生育は良好	
	＜EU＞ 生育は順調もフランス等で降雨による収穫の遅れ	
	＜中国＞ 天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し	
	＜ロシア＞ 2 年連続豊作の見通しも輸出税継続	
2	とうもろこし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
	＜米国＞ 収穫面積増で増産も輸出は減少見通し	
	＜ブラジル＞2020/21 年度冬とうもろこし生産見通し下方修正	
	＜アルゼンチン＞増産見通しも輸出税継続	
	＜中国＞ 収穫面積増で増産見通しだが、飼料用需要も増加	
3	コメ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 3
	＜米国＞ カリフォルニア州の乾燥や作付面積の減少で減産見通し	
	＜インド＞ 2020/21 年度の輸出量が 1,900 万トンに上方修正	
	＜中国＞ 国内消費が 1 億 5,600 万トンで史上最高の見通し	
	＜タイ＞ モンスーンにより産地の土壌水分量が改善	
	＜ベトナム＞タイと輸出 2 位争いの一方、インド産を輸入	

Ⅱ 油糧種子

大豆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
＜米国＞ 収穫面積増で増産も輸出は減少見通し	
＜ブラジル＞ 収穫面積増で増産、史上最高となる見通し	
＜アルゼンチン＞ 収穫面積増で増産見通しも輸出税継続	
＜中国＞ 収穫面積減で減産見通し、輸入量は約1億トン	
＜カナダ＞ 高温乾燥の影響懸念も東部の降雨で緩和	

【利用上の注意】

表紙写真：シアトル港のコンテナ船（出典” Unsplash”）

(概要編)

I 2021 年 7 月の主な動き

「緊急事態食料安全保障指針」における「早期注意段階」の適用について

1 経緯

農林水産省では、不測の要因により食料の供給に影響が及ぶおそれのある事態に的確に対処するため、政府として講ずべき対策の基本的な内容、根拠法令、実施手順等を示した「緊急事態食料安全保障指針」を策定（平成 24 年 9 月）し、事態の深刻度に応じて講ずべき対策を定めている。

近年の国内外の食料需給をめぐる状況の変化に加え、今般の新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が、我が国の食料需給に与える影響とそれを踏まえた今後の食料安全保障施策の方向性等について、有識者の知見も得ながら検討するため、本年 2 月に「食料安全保障アドバイザリーボード」を設置し議論を行ってきた。

これらの議論等を踏まえ、本年 7 月 1 日付で同指針を改正し、安定的な食料供給の確保に懸念が生じる前段階においても、同指針に基づき情報収集・発信の強化等の必要な取組を実施するため、「早期注意段階」を新設した。

2 早期注意段階の適用

農林水産省では、以下の情勢を踏まえ、7 月 1 日から早期注意段階の適用を開始した。

① 穀物等の国際価格の高騰

大豆、とうもろこし等の国際価格が昨年来上昇しており、5 月には、史上最高値を記録した 2012 年に迫る水準まで上昇。

※ 本レポートでの関連箇所：P5、P8、P10、P14、品目別 P9、P20 等

② 海上運賃の上昇

海上運賃は昨年来上昇しており、現在は直近 5 年間で最高水準。

※ 本レポートでの関連箇所：P5 等

③ 国際的な物流の遅れ

世界的なコンテナ不足、偏在等による国際的な物流の遅れが発生。

※ 本レポートでの関連箇所：P4、P5、品目別 P11 等

3 早期注意段階の継続

2. の①～③の各状況に未だ大きな変化はなく、今後しばらくはこの傾向が継続する懸念があるため、農林水産省としては、早期注意段階の適用を継続し、引き続き関連情報の収集・分析・発信の強化を継続する。

【参考】早期注意段階について（農林水産省 HP）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



新型コロナの発生を踏まえた食料安全保障対策について（令和3年6月）

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大など、食料供給を脅かす新たなリスクに適切に対応するため、「早期注意段階」の新設や事業継続計画等の策定・見直しの促進等、食料安全保障対策を強化。

1. 新型コロナの中での食料需給への影響の検証

新型コロナの世界的な感染拡大の中でも、我が国の食料供給全体に大きな問題は生じなかったが、需要の急激な変化等によりフードサプライチェーンへの影響が発生。



（※令和3年2月に「食料安全保障アドバイザリーボード」を設置し検証）

食料の安定供給に対するリスクへの対応として、

- ・ 平素からの情報収集・分析の強化
- ・ 消費者等に対する適切な情報発信
- ・ 各事業者における 事業継続計画等の策定・見直し等の重要性を改めて認識。

2. 食料安全保障対策の強化のポイント

（「緊急事態食料安全保障指針」の改正）

- ・ 「早期注意段階」を新設（情報の収集・分析の強化と関連業界、消費者への的確な情報発信等）
- ・ 平素からの効率的な情報収集・発信のための省内体制を強化
- ・ 事業継続計画等の策定、状況に応じた見直し等を促進
- ・ 新型コロナにおける 食料の購買行動と情報の受発信の関係等を調査・分析

サプライチェーンへの影響

- ・ 令和2年2月以降、学校の休校や外出自粛等の影響が顕在化し、パスタ等の小麦粉製品の家庭用需要が増加。



パスタの販売金額（首都圏：埼玉/千葉/東京/神奈川）



農林水産省YouTubeで小麦の備蓄状況を公開

- ・ 原料の供給に不足はなかったものの、業務用から家庭用への需要の急激な変化に製品の製造・供給が追いつかず、スーパー等で一部商品が品薄・欠品。買い占めや転売等も発生。

- ・ 農林水産省は、消費者向けに落ち着いた購買行動を呼びかけるとともに、食品メーカー等に安定供給を要請し、HPで供給情報を発信。



HP等で落ち着いた購買行動を呼びかけ

▶ 令和2年5月中旬以降、品薄感は徐々に解消。

事業継続計画等の策定・見直しに向けた動き

- ・ 農林水産省HPにおいて、新型コロナウイルス感染者発生時の対応・業務継続に関するガイドラインを公表。

▶ これを踏まえ、農林水産関係の団体が17の業種別ガイドラインを作成。

緊急事態食料安全保障指針について

農林水産省では、不測の要因により食料の供給に影響が及ぶおそれのある事態に的確に対処するため、政府として講ずべき対策の基本的な内容、根拠法令、実施手順等を示した「緊急事態食料安全保障指針(以下「指針」という。)」(平成24年9月農林水産省決定)を策定。

※下線部分は令和3年7月1日改正

○食料安全保障対策の概要

平素からの取組

- 食料自給力の維持向上
- 適切かつ効率的な備蓄の運用、安定的な輸入の確保
- 国内外の食料供給に関する情報の収集・分析・提供
平素からの効率的な情報収集・発信のための省内体制を強化
- 早期の警戒監視の強化
早期注意段階を新設し、情報の収集・分析の強化と、
関連業界、消費者への的確な情報発信等を実施
- 事業継続計画等の策定、状況に応じた見直し等を促進

レベル0 レベル1以降の事態に発展するおそれがある場合

- 食料供給の見通しに関する情報収集・分析・提供
- 備蓄の活用と輸入の確保
- 規格外品の出荷、廃棄の抑制などの関係者の取組の促進
- 食料の価格動向などの調査・監視

レベル1 特定の品目の供給が、平時の供給を2割以上下回ると予測される場合を目安

- 緊急の増産(国民生活安定緊急措置法)
- 生産資材(種子・種苗、肥料、農薬)の確保(国民生活安定緊急措置法など)
- 買い占めの是正など適正な流通の確保(買い占め等防止法など)
- 標準価格の設定などの価格の規制(国民生活安定緊急措置法)

レベル2 1人1日当たり供給熱量が2,000kcalを下回ると予測される場合を目安

- 熱量効率が高い作物などへの生産の転換(国民生活安定緊急措置法)
- 既存農地以外の土地の利用
- 食料の割当て・配給及び物価統制(物価統制令、国民生活安定緊急措置法、食糧法)
- 石油の供給の確保(石油需給適正化法)

○食料の供給に影響を及ぼす不測の要因

(1) 国内における要因

- | | |
|----------------------|------------------|
| ①大規模自然災害や異常気象 | ④食品の安全に関する事件・事故 |
| ②感染症の流行 | ⑤食品等のサプライチェーンの寸断 |
| ③家畜・水産動物の伝染性疾病や植物病害虫 | ⑥地球温暖化等の気候変動 |

(2) 海外における要因

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| ①大規模自然災害や異常気象 | ⑩石油等の燃料の供給不足 |
| ②感染症の流行 | ⑪地球温暖化等の気候変動 |
| ③家畜・水産動物の伝染性疾病や植物病害虫 | ⑫肥料(養殖用飼料)需給の逼迫 |
| ④食品の安全に関する事件・事故 | ⑬遺伝資源の入手困難 |
| ⑤港湾等での輸送障害 | ⑭水需給の逼迫 |
| ⑥輸出国における紛争、政情不安、テロ | ⑮単収の伸び率の鈍化 |
| ⑦輸出国における輸出規制 | ⑯水産資源の変動 |
| ⑧輸出国一輸入国間等の貿易上の
障害の発生(貿易摩擦) | ⑰人口増加に伴う食料需要増加 |
| ⑨為替変動 | ⑱バイオ燃料向け需要の増加 |
| | ⑲新興国との輸入の競合 |

○不測の事態に対する体制

食料安全保障室

- レベル0以降の事態が発生又は当該事態に発展するおそれがあるとの判断
- 食料供給に関する対策検討チームを開催

農林水産省対策本部

- (本部長:大臣、本部長代理:副大臣、副本部長:大臣政務官)
- 不測時のレベルについて判断
 - 農林水産省が実施すべき対策の協議・決定
 - 政府対策本部の設置要請

政府対策本部

- 不測の事態のレベルの判定
- 政府一体となって取り組むべき対策を決定

1 中国の穀物輸入動向

中国の2021年1～5月の穀物・大豆の輸入については、前年同期と比べ大幅に増加している。小麦については、459万トン（対前年同期比2倍）、とうもろこしは1,173万トン（対前年同期比4倍）で、2020年の年間の輸入量に匹敵する数量、また、大豆は3,823万トン（対前年同期比13%増）となっている。

この増加については、2020年後半以降のアフリカ豚熱（ASF）の影響からの豚肉生産の回復に加え、新型コロナウイルスの影響からの経済の回復が背景にあるとみられる。

なお、米国農務省（USDA）の7月需給報告によれば、中国国内の大豆備蓄が高水準となり、輸入量が搾油ペースを上回っていることから2020/21年度、2021/22年度の大豆の輸入量は前月より下方修正され、それぞれ9,800万トン、1億200万トンとなっている。とうもろこしの2021/22年の輸入量は2,600万トンと前年度と同水準、小麦の輸入量は1,000万トンと前年度より減少も、高水準の見通し。

2 欧州の小麦の生産・輸出動向

欧州の冬小麦は、概ね順調に生育しており、7月以降、収穫期を迎えるとみられる。USDAの7月需給報告によれば、2021/22年度の欧州の小麦生産については、EUは1億3,820万トン（2020/21年度1億2,590万トン）、ウクライナは3,000万トン（同2,540万トン）と春の降雨に恵まれたことで前月より上方修正され、前年度と比べて大幅に増産となる見通し。ロシアについても冬小麦の春の寒波による被害はあるものの、史上最高であった前年度（8,540万トン）に匹敵する8,500万トンの見込み。

これに伴い、EUの小麦輸出は3,400万トンと前年度（3,080万トン）より増加する見込みである。また、ウクライナでは、2020/21年度に穀物業界と同意の上設定された輸出上限数量（小麦1,750万トン、とうもろこし2,400万トン）が6月末で終了した。ロシアについては、本年2月から設定されていた小麦を含む穀物の輸出枠（1,750万トン）は6月末で終了し、穀物の輸出価格に応じて毎週変動する可変輸出関税は小麦、とうもろこし、大麦で継続される。

写真：ドイツ バイエルン州の小麦
（7月8日撮影）

生育状況は良好で8月に収穫見込



3 カナダの作付けと高温・乾燥の影響

カナダ統計局が6月29日付けで作付面積調査結果を公表した。これによると2021/22年度は、前年度と比較して、特に油糧種子価格の高騰により、菜種は910万ヘクタール（前年対比8.2%増）、大豆は215万ヘクタール（同4.9%増）と増加した一方、世界的な増産が見込まれる小麦については、945万ヘクタール（同6.5%減）と減少した。特にデュラム小麦を除く春小麦については667万ヘクタール（同8.1%減）と減少しており、菜種等ヘシフトしたとみられる。

6月以降カナダでは乾燥状態が続いていたが、大豆等の産地のカナダ東部のオンタリオ州、ケベック州では7月上旬に降雨があり乾燥の影響が緩和された。一方、カナダ西部では、6月下旬に記録的な高温となり、春小麦や菜種の産地の平原3州では、7月に入っても高温・乾燥が継続し、土壌水分は不足している。

なお、高温による山火事の発生から、6月末に小麦産地の平原3州から太平洋岸のバンクーバー港へ向かう鉄道の一部で損傷が発生したが、7月中旬には修復された。

Ⅱ 2021 年 7 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、6 月末、240 ドル/トン台半ばで推移。7 月に入り、米国産冬小麦の収穫の進展や、とうもろこし価格の低下等から 7 月上旬に 220 ドル/トン台前半まで値を下げたものの、USDA の 7 月需給報告で米国産小麦の生産量予測が市場予測を大幅に下回ったこと、プレーンズ北部の春小麦生産地域の高温・乾燥天候による作柄への影響懸念から値を上げ、7 月中旬現在、250 ドル/トン台半ばで推移。

とうもろこしは、6 月末、280 ドル/トン台前半で推移。7 月に入り、米国中西部の乾燥地域への降雨や高温・乾燥による作柄への影響懸念、USDA の 7 月需給報告で米国産とうもろこしの生産量予測が上方修正されたこと等から値が上下し、7 月中旬現在、220 ドル/トン前後で推移。

コメは、6 月末、450 ドル/トン前後で推移。バーツ安により輸出価格が下落するとともに、タイからの輸出に伴う高い海上コンテナ運賃が引き続き大きな懸念事項。7 月中旬現在、430 ドル/トン半ばで推移。

大豆は、6 月末、530 ドル/トン台前半で推移。7 月に入り、収穫が終了したブラジルの豊作見通しや米国中西部の乾燥地域への降雨や高温・乾燥による作柄への影響懸念から値が上下し、7 月中旬現在、530 ドル/トン半ばで推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、米はタイ国家貿易委員会価格

Ⅲ 2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から 240 万トン下方修正され 28.0 億トン。消費量は、前月から 210 万トン下方修正され 27.9 億トン となり、生産量が消費量を上回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を下回り 27.8% となる見込み（資料 2 参照）。

生産量は、前月予測から、小麦、コメで下方修正、とうもろこしで上方修正され、穀物全体で下方修正され 28.0 億トンの見込み。

消費量は、前月予測から、小麦、コメは下方修正、とうもろこしは上方修正され、穀物全体で下方修正され 27.9 億トンの見込み。

貿易量は、前月予測から、小麦、とうもろこし、コメで上方修正され 5.0 億トンの見込み。

期末在庫量は、7.8 億トンと前月予測から下方修正、期末在庫率は前月から下方修正された。。

(注：数値は 7 月の USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

Ⅳ 2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.4 億トン。消費量は前年度を上回り 6.3 億トン となり、生産量が消費量を上回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を上回り、17.3% となる見込み。

(注：数値は 7 月の USDA 「Oilseeds : World Markets and Trade」による)

V 今月の注目情報:高温乾燥の影響を受けた米国の穀物需給

2021/22年度の米国の春小麦、とうもろこし、大豆の作付け・生育は、4月後半以降温暖な天候に恵まれ進展し、7月には春小麦は出穂期、とうもろこしは受粉期、大豆は開花期を迎えたとみられる。しかし、6月末には北西部で記録的な高温、乾燥を記録し、7月に入り一部で降雨が見られたものの、西部を中心に乾燥した状態が継続している。一方、中国向けの輸出増加に加え、米国経済の回復によるバイオ燃料向け需要等の伸びもあり、期末在庫は低水準となっている。最近の米国の状況をまとめた。

1 米国の2021/22年度の作付け・生育動向

(1) 作付面積調査

6月30日に公表された米国農務省(USDA)の作付面積調査によれば、作付面積は、小麦は前年度より5%増の1,892万ヘクタール、大豆も同5%増の3,543万ヘクタール、とうもろこしは同2%増の3,751万ヘクタールとなった。

小麦は前年度より増加も1919年の調査開始以来4番目に少ない水準である。小麦全体の7割を占める冬小麦は7%増も、春小麦は一部地域で同時期に作付けされるととうもろこしや大豆と競合したとみられ、前年度よりデュラム小麦で12%減、デュラムを除く春小麦で5%減となった。

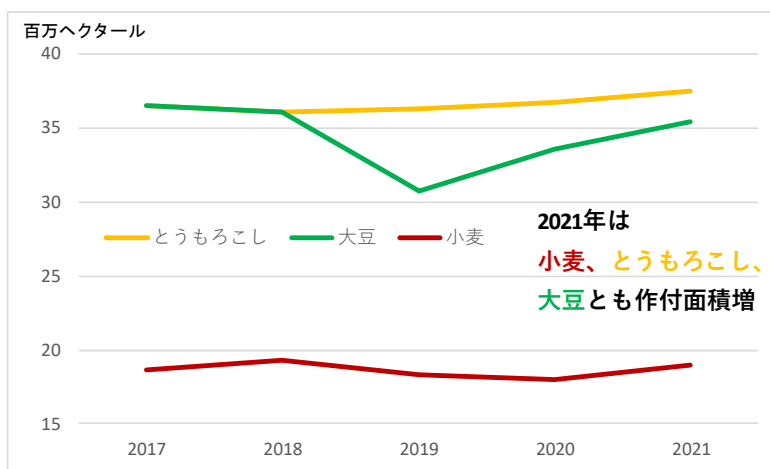
一方、とうもろこし、大豆は米国の作付時期の4月～5月にかけ中国の旺盛な輸入などで穀物価格が高騰し、農家の生産意欲を刺激したとみられ、作付面積は前年度より増加した。

なお、その他の作物では、綿花については、474万ヘクタールで対前年比3%減少し、コメは、108万ヘクタールで対前年比12%減少。背景には、カリフォルニア州の灌漑用水の不足やミシシッピ川沿いでの大豆など他の作物への作付けのシフトがあるとみられる。

(2) 6月下旬から7月の天候

6月中旬以降、米国北部からカナダにかけ高温乾燥となり、6月末には、北西部で平年より摂氏で6～11度高温となった。特にオレゴン州やワシントン州では地域によっては摂氏47度を記録し、過去最高に並びあるいは迫った。この熱波は乾燥を伴い、放牧地、牧

図1 米国の小麦、とうもろこし、大豆作付面積の推移



資料：米国農務省「Acreage」

写真 ノースダコタ州の春小麦(6月25日撮影)

この圃場では十分な降雨がなく春小麦が十分に生育しなかったため収穫を断念した



草地、成熟した冬小麦、春作物に悪影響を及ぼした。コーンベルト北部・西部も高温乾燥となった。一方、コーンベルト東部では6月に適度な降雨があり、生育は順調である。

7月に入り温度は低下したものの、コーンベルト西部は乾燥気味となっている。春小麦は出穂期が終盤となり、とうもろこしは受粉期、大豆は開花期を迎えている。USDAの「Crop Progress」(2021.7.19)によれば、特に高温、乾燥の影響があったとみられる春小麦の作柄評価は、「良～やや良」は11%(前年同期68%)と非常に低い。また、とうもろこしは、「良～やや良」は65%(同69%)、大豆は、「良～やや良」は60%(同69%)、と前年同期を下回っている。

(3) 生産見通し

7月のUSDAの生産見通しは、6月の作付面積調査を反映しており、とうもろこしは、6月の作付面積の増加を織り込み前月予測より440万トン上方修正され、3億8,520万トンと前年度より6.9%増の見通しである。大豆は6月予測の1億1,990万トンが据え置かれた。一方、小麦は、北西部の熱波と干ばつの影響により春小麦やデュラム小麦やその他春小麦の単収が引き下げられ、デュラム小麦は対前年度比46%減の100万トン、春小麦は、生産量は小麦全体で前月対比41%減の940万トンとなった。現在収穫中の冬小麦も含めた合計で、前月見通しより410万トン下方修正され、対前年度比4.4%減の4,750万トンの見通し。

2 米国の需要と輸出

(1) 回復する国内需要

小麦に関しては、春小麦の生産量の下方修正により、消費量も下方修正されたが、飼料用需要が増加していることもあり、合計で3,250万トンと前年度比6.8%増と見込まれている。

とうもろこしに関しては、2020/21年度以降、新型コロナウイルスの影響で落ち込んでいた米国内のバイオ燃料需要が、ワクチン接種の進展により、規制が緩和され、自動車の運転機会の増加により回復に転じた。USDAの7月見通しによれば、2021/22年度のとうもろこしのバイオ燃料向け需要は6月予測が据え置かれ1億3,210万トンで前年度より増加し、飼料用需要は供給量の増加により上方修正され1億4,540万トンで、前年度と同水準となる見込み。食用等を含む消費量計で3億1,350万トンと前年度比で1.2%増加すると見込まれている。

2021/22年度の大豆の搾油需要も国内のバイオディーゼル向け需要が堅調で、需要量は前年度より3.0%増の6,380万トンの見通しである。

(2) 伸びる中国向け輸出

5月26日付けのUSDAの四半期貿易予測によれば、米国の2021会計年度(2020年10月～2021年9月)の農産物輸出が、対前年度比21%増、280億ドル増で、過去の2014年度(1,523億ドル)を上回る史上最高の1,640億ドルの見込み。中国向けの大豆、とうもろこしの輸出が顕著で、主要因は農産物価格の高騰と、他の輸出国の減産や収穫遅れ等により輸出競争で優位となったことによるとしている。

米国の2021年1～6月の穀物等の輸出量(輸出検証高)をみると、小麦は1,255万トン、とうもろこし4,300万トン、大豆1,828万トンで、前年度よりわずかに減少の小麦を除いて増加している。特に、中国向け輸出が大きく増加しており、特に小麦は約3倍、大豆は約2倍で、とうもろこしについては約26倍となっている。

中国の海関統計を見ても米国産の輸入量及びシェアの増加が目立っている。

1～5月の輸入量で見ると、米国産の小麦については、前年同期比9倍の120万トン。とうもろこしについては、前年5000倍以上の667万トンとなっている。大豆も

同様に前年同期比2.4倍の2,153万トンで、収穫遅れで輸出が遅れたブラジル産を抑えて、現時点ではシェアが前年同期の23%から56%に増加している。但し、6月以降、ブラジルの収穫進展に伴い、米国産からブラジル産に置き換わるとみられる。

表1 小麦、とうもろこし、大豆の米国の対中輸出（上）と中国の対米輸入（下）

	2020年1-6月			2021年1-6月			前年対比
		うち中国	シェア		うち中国	シェア	
小麦	1,267	51	4.0	1,255	153	12.2	200.1
とうもろこし	2,571	47	1.8	4,300	1,242	28.9	2516.4
大豆	1,577	371	23.6	1,828	748	41.0	101.5

資料：米国農務省 輸出検証高

	2020年				2021年			
	1-5月	うち米国	年計	うち米国	1-5月	前年同期比	うち米国	前年同期比
小麦	231	13	815	178	459	99	120	808
とうもろこし	277	0	1,130	434	1,173	323	667	531991
大豆	3,388	897	10,033	2,589	3,823	13	2,153	140

資料：中国「海関統計」

3 国際需給、価格への影響

穀物等の国際価格については、前年後半からASFからの豚肉生産の回復による中国の穀物等の輸入増や南米の乾燥懸念等に伴い上昇し、5月前半には2012年の過去最高の価格に近づく水準まで上昇した。その後は、米国の作付け、生育の進展等に伴い、高水準ではあるが、5月の水準よりは下落している。

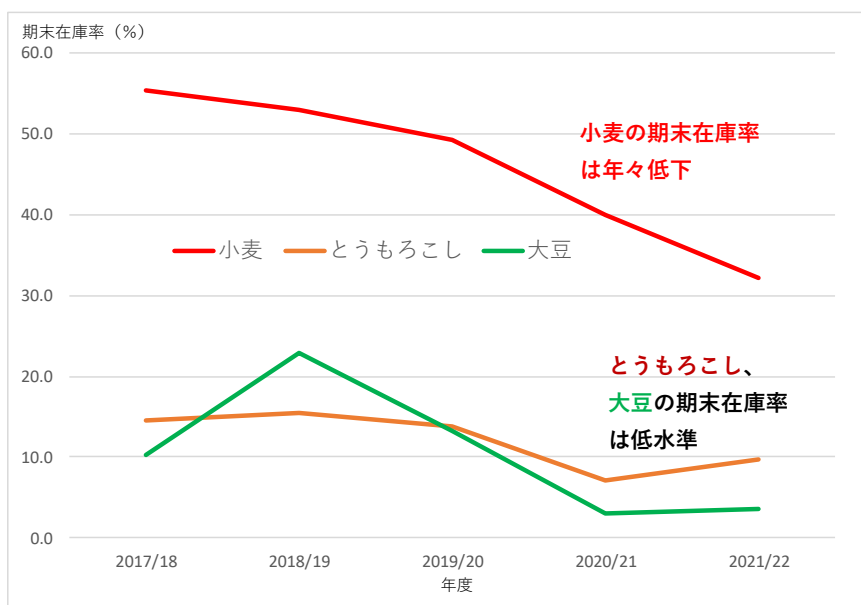
2021/22年度の米国の小麦、とうもろこし、大豆の国内需要は、それぞれ増加する一方、輸出については、期首

在庫を含めた供給量の制約から減少する見通しである。期末在庫率は、小麦は32.1%と年々減少しており、とうもろこしは9.6%、大豆は3.5%と2年連続で1桁台の低水準となる見通しである。

今後の国際需給への影響としては、7月以降の米国の受粉期、開花期の高温・乾燥の影響がどの程度生産量に影響するかは不確定な部分もある。特に、7月の気温や水分がとうもろこしの単収決定に大きな影響があるといわれている。

一方、中国の5月の大豆の輸入量が前年同月を下回る等、中国の穀物輸入のペースも緩やかになっており、米国の需給動向と国際需給、価格への影響については引き続き注視していく。

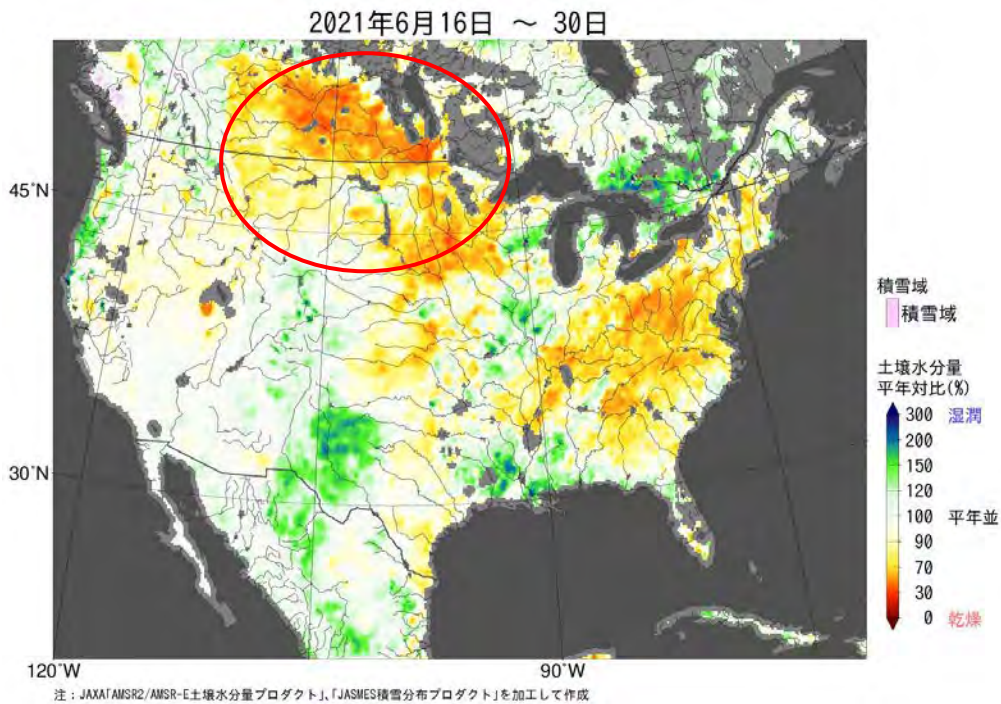
図2 米国の小麦、とうもろこし、大豆の期末在庫率の推移



資料：米国農務省「PS&D」(2021.7)

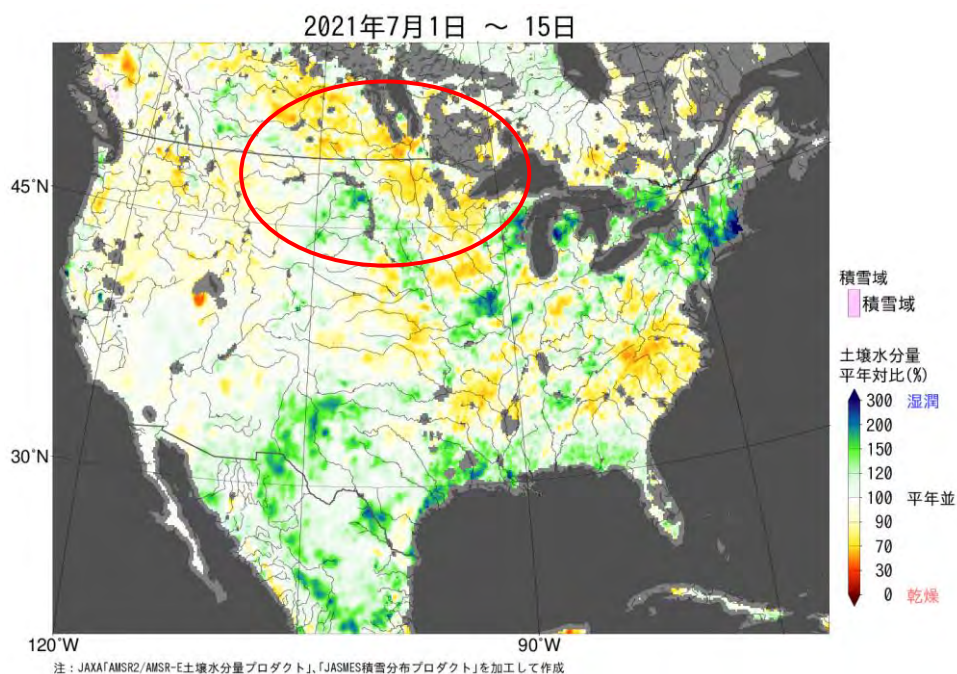
図3 図 JASMAI 北米の土壌水分量平年対比

(6月後半) コーンベルト北部からカナダ西部にかけ土壌水分が平年より少ない(赤丸)



(7月前半) コーンベルト北部からカナダ西部にかけ

土壌水分が少ない状況が継続も、6月後半より改善(赤丸)



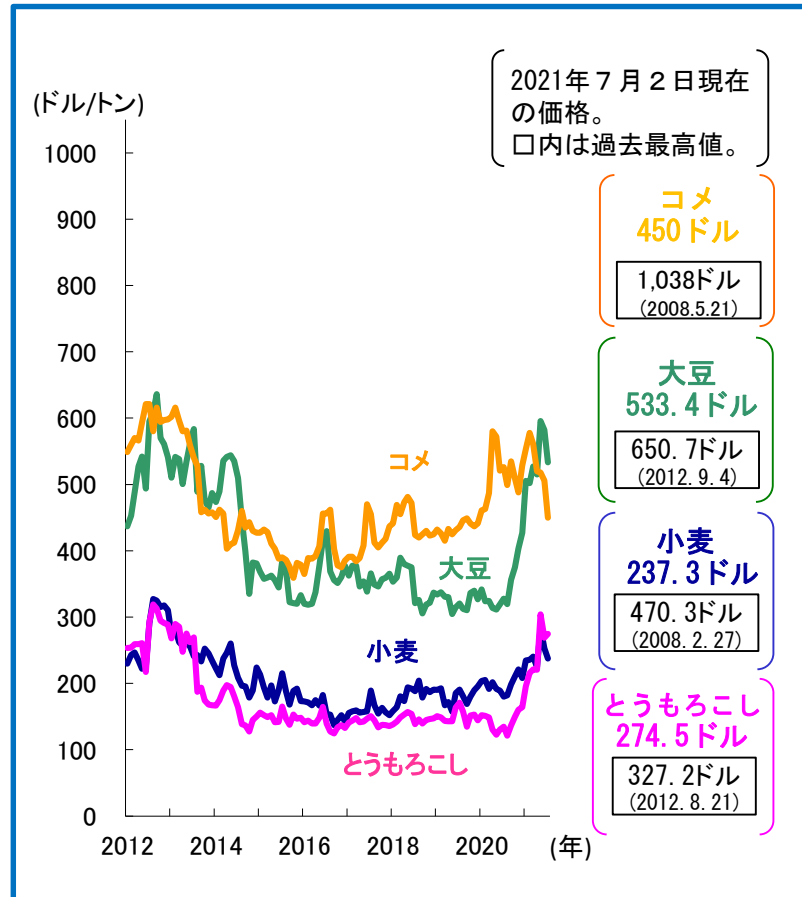
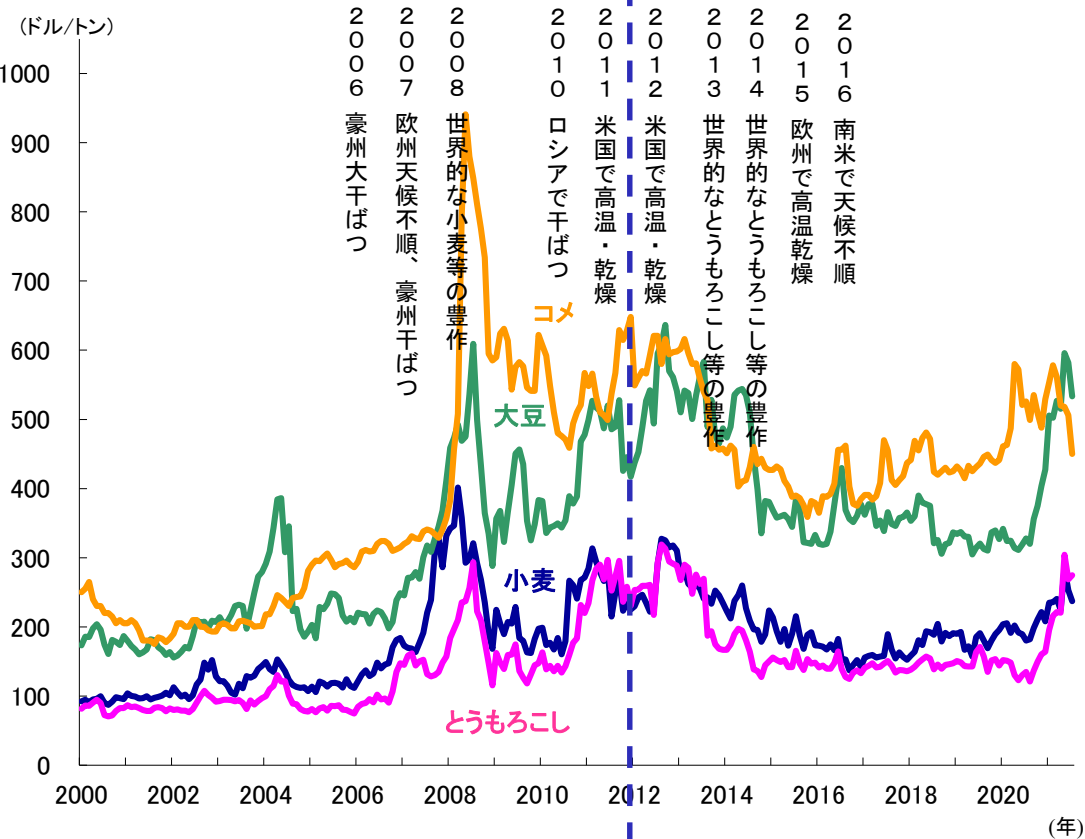
資料: 農林水産省「農業気象情報衛星モニタリングシステム」
<https://jasmai.maff.go.jp/>

資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

○とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2017年以降ほぼ横ばいで推移も、2020年後半から南米の乾燥懸念、中国の輸入需要の増加等により、大豆、とうもろこしを中心に上昇。コメは、2013年以降低下したが、2020年ベトナムの輸出枠の設定等により3月末から上昇。同年4月末の輸出枠の解除等で下落も、依然として高止まり。

○なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により、2008年以前を上回る水準で推移している。

□ 穀物等の国際価格の動向



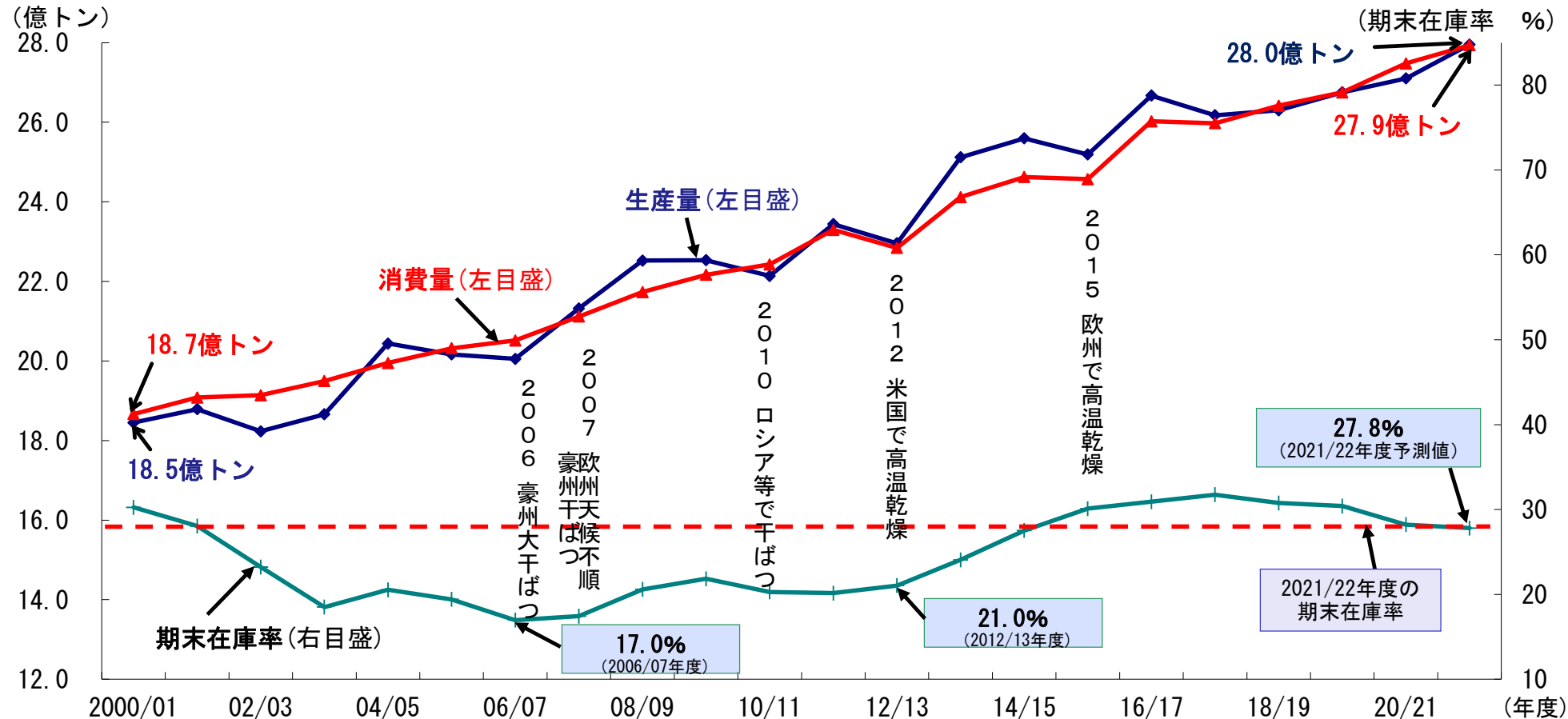
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。
なお、コメの最新価格は2021年6月30日現在の価格。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2021/22年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2021/22年度の期末在庫率は、生産量が消費量を上回るものの、前年度より低下し、27.8%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

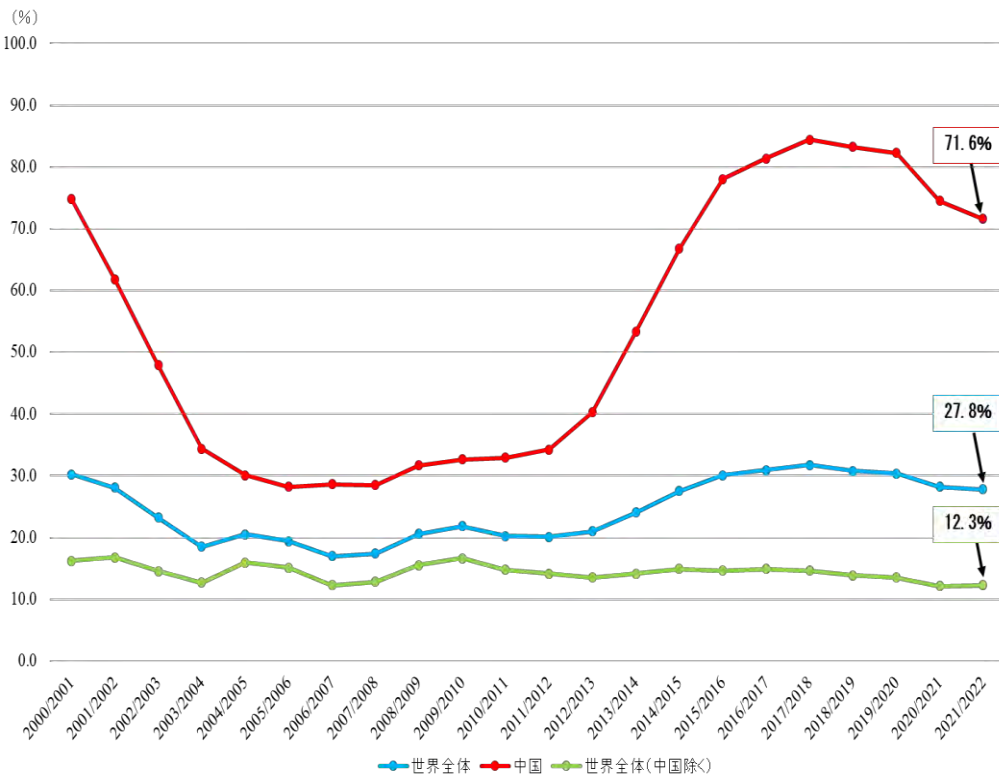


資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 2021)、「PS&D」

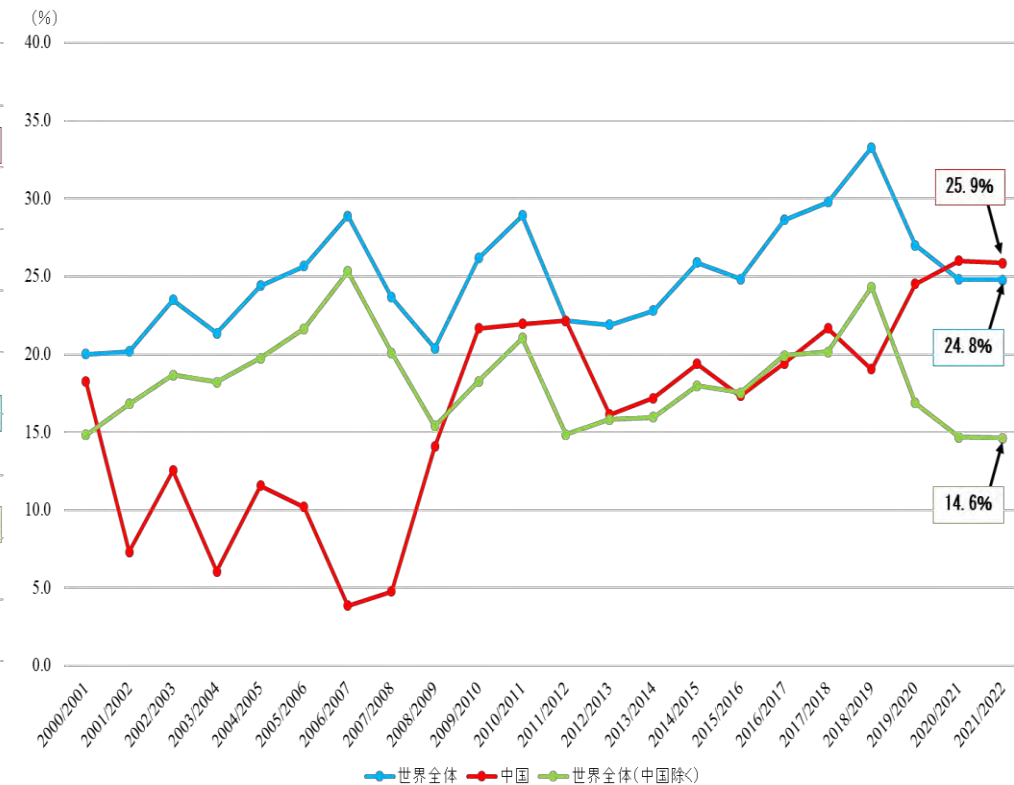
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料：米国農務省「PS&D」(July 12, 2021)

注：1)穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。また、小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

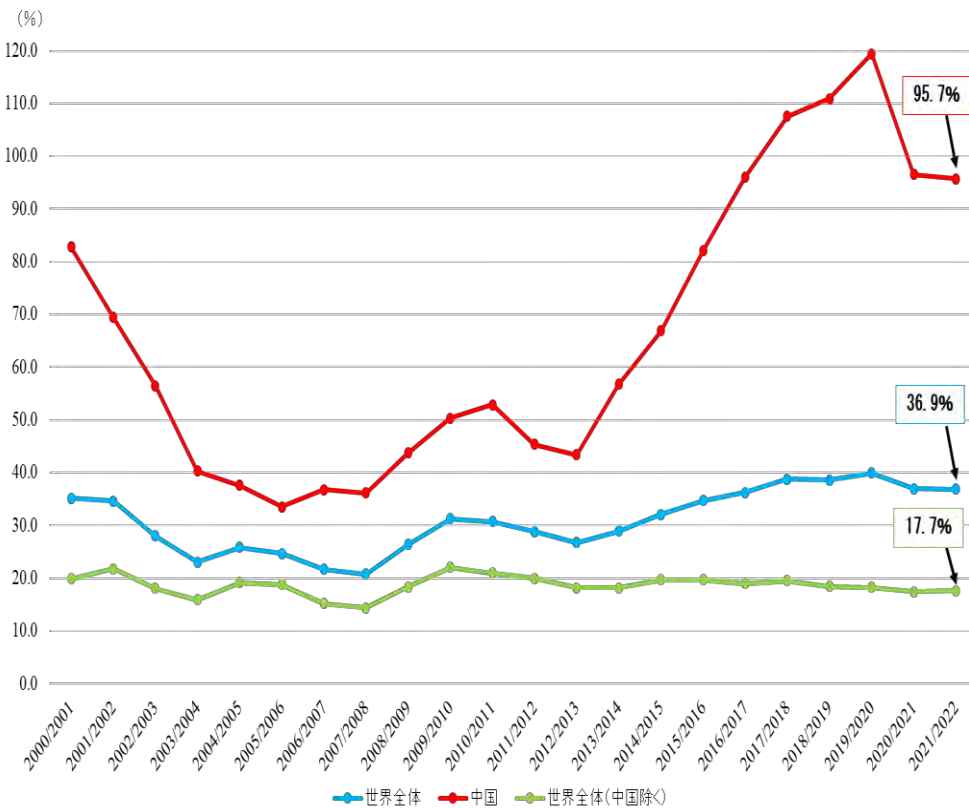
2)世界の期末在庫率(%)＝期末在庫量／(消費量＋輸出货量－輸入量)×100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%)＝期末在庫量／消費量×100

3)中国の期末在庫率(%)＝中国の期末在庫量／(中国の消費量＋中国の輸出货量)×100

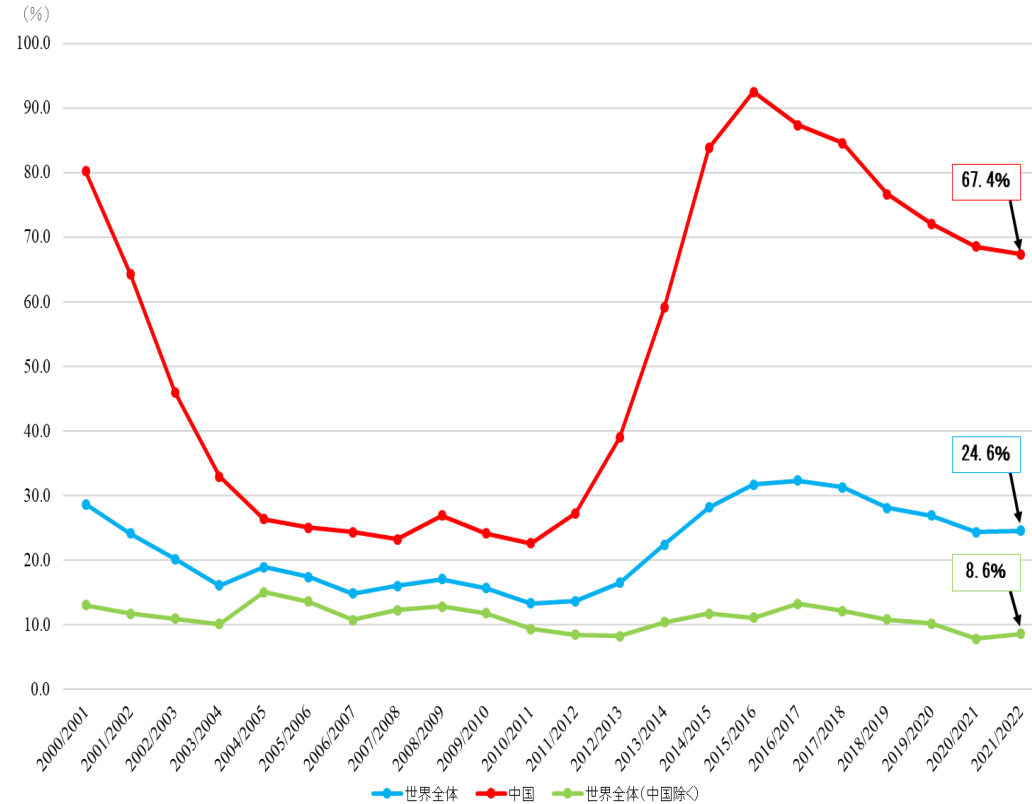
4)中国除く期末在庫率(%)＝中国除く期末在庫量／(中国除く消費量＋中国除く輸出货量)×100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料：米国農務省「PS&D」(July 12, 2021)

注：1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

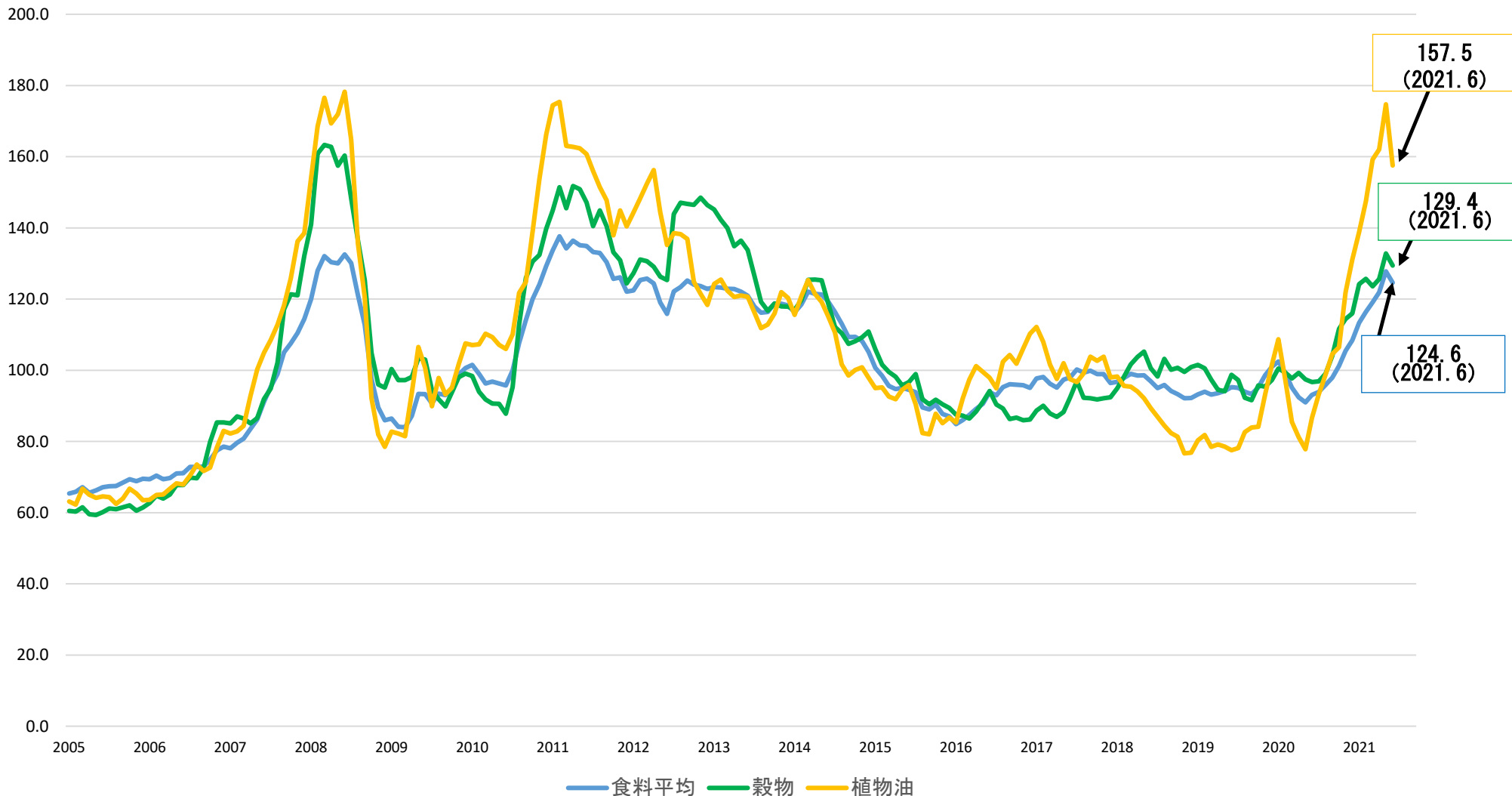
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料 4 FAO食料価格指数の推移

(2014-16平均=100)



資料：FAO「Food Price Index」(2021.07)より作成

注：穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

資料5 食品小売価格の動向

○ 国内の加工食品の小売価格については大きな値動きはなし。

消費者物価指数（総務省）
（令和3年1月～令和3年6月）

【参考】
食品価格動向調査（農林水産省）
（令和3年1月～令和3年7月）

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3						
品目	平均	平均	平均	平均	平均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	上昇率 (前年 同月比)
食パン	101.1	100.9	101.4	102.3	101.2	100.4	100.2	99.9	100.5	99.5	100.3	-1.2%
即席めん	100.0	99.5	99.0	102.4	103.9	104.1	104.4	104.0	105.1	103.6	102.9	-1.5%
豆腐	100.0	100.5	100.7	101.0	101.9	102.4	102.7	103.0	102.9	103.0	102.9	1.1%
食用油 (キャノーラ油)	97.8	94.5	93.3	92.8	92.0	91.3	91.0	90.3	90.8	91.3	94.1	2.4%
みそ	99.4	99.1	99.6	101.4	102.3	101.2	102.0	102.5	102.1	102.3	100.8	-1.8%
チーズ	99.3	98.8	102.6	102.9	101.7	101.4	102.0	101.2	101.9	99.3	97.8	-3.4%
バター	101.5	101.7	102.0	102.3	102.4	102.3	102.4	102.2	102.3	102.3	102.4	0.3%
マヨネーズ	98.1	96.7	95.3	95.1	94.5	93.8	94.6	94.8	94.1	94.9	94.4	-0.5%
生鮮食品を 除く総合	99.7	100.2	101.0	101.7	101.5	101.4	101.5	101.8	101.5	101.7	101.7	0.2%

注1：平成27年の平均値を100とした指数で表記。

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3								
品目	平均	平均	平均	平均	平均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	100.9	99.5	99.8	103.2	101.9	101.2	101.6	101.6	100.5	99.9	100.3	99.7	-0.7%	-1.9%
即席めん	99.8	99.6	99.5	105.3	107.6	106.5	107.2	107.2	107.2	107.2	107.2	106.5	-0.6%	-1.3%
豆腐	96.9	95.6	95.0	95.7	94.8	94.7	96.3	93.9	93.4	94.3	95.1	95.1	0.0%	0.8%
食用油 (キャノーラ油)	96.3	94.6	94.6	100.1	96.7	95.0	94.0	93.7	95.6	95.0	96.8	97.4	0.6%	1.3%
みそ	99.8	101.6	106.8	111.0	110.5	109.4	111.0	109.9	108.7	109.9	110.3	108.5	-1.7%	-1.5%
チーズ	100.0	99.7	103.2	105.7	104.8	104.8	105.8	104.8	103.8	103.2	97.5	104.3	6.9%	-0.5%
バター	101.3	102.0	102.3	102.7	103.3	103.4	103.2	103.4	103.0	102.7	103.0	102.7	-0.2%	-0.5%
マヨネーズ	99.2	98.4	97.2	102.4	99.3	98.3	98.3	98.0	96.9	96.9	98.3	103.8	5.6%	5.6%

注1：平成27年の平均値を100とした指数で表記。

注2：調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注3：調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4：令和2年4～5月、令和3年1～3月、同5～7月については、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象都道府県においては調査を中止。そのためそれぞれ前月の値とは接続しない。

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・豪州等で上方修正も、米国、ロシア等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

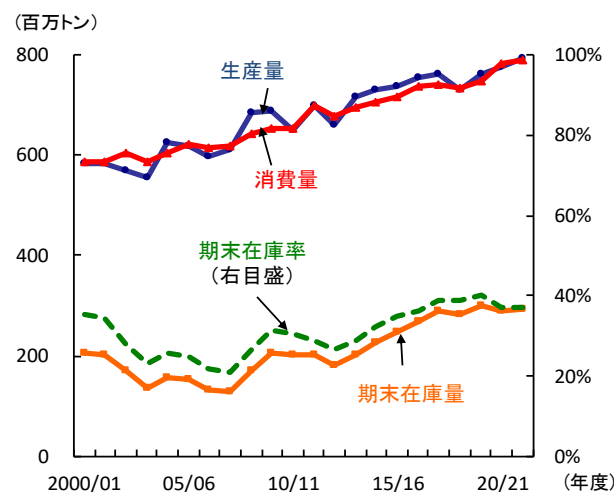
消費量 前年度比 前月比

- ・パキスタン等で上方修正も、ロシア等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・米国、カナダ等で下方修正も、EU等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：「PS&D」（2021.7.12）をもとに農林水産省で作成

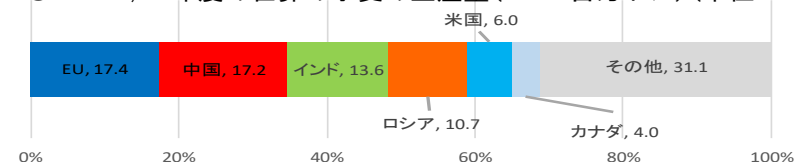
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

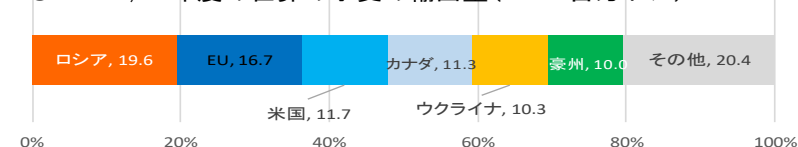
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	763.5	775.8	792.4	▲ 2.0	2.1
消 費 量	748.3	785.0	790.9	▲ 0.2	0.8
うち飼料用	139.4	158.3	160.6	▲ 0.2	1.4
輸 出 量	195.0	201.4	204.0	0.8	1.3
輸 入 量	187.8	192.4	202.0	2.5	5.0
期末在庫量	299.3	290.2	291.7	▲ 5.1	0.5
期末在庫率	40.0%	37.0%	36.9%	▲ 0.6	▲ 0.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 July 2021)

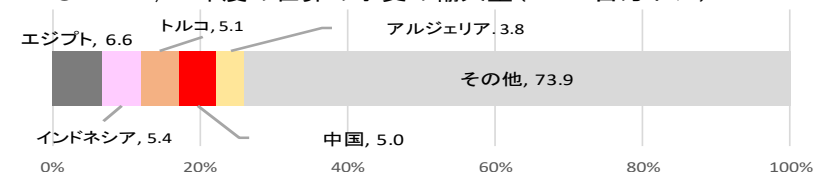
○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量(792.4百万トン) (単位：%)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量(204.0百万トン)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量(202.0百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > プレーンズ北部の高温乾燥の影響で春小麦減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測から4.1百万トン下方修正され、前年度に比べ4.4%減の47.5百万トンの見込み。

同「Crop Production」(2021.7.12)によれば、冬小麦の生産量は、収穫面積の増加と単収の上昇により、37.1百万トンと前年度(31.9百万トン)を16.5%上回る見込み。

また、春小麦の生産量は、プレーンズ北部の干ばつにより、収穫面積が減少し、単収が2002/03年度以降最低となることから、9.4百万トンと、前年度(15.9百万トン)を41%下回る見込み。デュラム小麦も収穫面積の減少と単収の低下から、1.0百万トンと前年度(1.9百万トン)を45.9%下回る見込み。なお、春小麦産地の98%、デュラム小麦産地の95%が、干ばつが継続する地域に含まれ、主要生産地のノースダコタ州の生産量は、前年度に比べ春小麦が41.6%、デュラム小麦が54.8%減少する見込み。

品種別の生産量は、冬小麦のハード・レッド・ウインター(HRW)が前年度より増加し21.9百万トン、ソフト・レッド・ウインター(SRW)が9.9百万トンと前年度を上回る見込み。また、春小麦はハード・レッド・スプリング(HRS)が、干ばつの影響により前年度より減少し9.4百万トン、デュラム小麦が1.0百万トンと前年度を下回る見込み。

なお、HRWは降雨で単収が上昇したものの、タンパク質が低下した可能性がある。

同「Crop Progress」(2021.7.19)によれば、7月18日時点の冬小麦の収穫進捗率(主要生産18州)は73%と、前年度同期並で、5年平均を上回っている。春小麦は、出穂進捗率(主要6州)が92%と前年度同期の89%を上回り、5年平均並となっている。春小麦の作柄評価は、良～やや良が前週より5ポイント低い11%となり、前年度同期の68%を大きく下回っている。干ばつが継続しているワシントン州やプレーンズ北部のサウスダコタ州の同作柄評価は、それぞれ0%、5%と低い状況になっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、春小麦の干ばつによる生産量予測の減少から、前月予測から0.7百万トン下方修正され、23.8百万トン。

小麦－米国(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	52.6	49.7	47.5	▲ 4.1	▲ 4.4
消費量	30.4	30.5	32.5	▲ 0.3	6.8
うち飼料用	2.6	2.7	4.6	▲ 0.3	73.4
輸出量	26.4	27.0	23.8	▲ 0.7	▲ 11.8
輸入量	2.8	2.7	4.0	0.6	47.9
期末在庫量	28.0	23.0	18.1	▲ 2.9	▲ 21.2
期末在庫率	49.3%	40.0%	32.1%	▲ 4.5	▲ 7.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	15.13	14.87	15.42	0.27	3.7
単収(t/ha)	3.47	3.34	3.08	▲ 0.33	▲ 7.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(12 July 2021)

図 米国小麦生産地帯の干ばつ状況(6月30日及び7月13日)

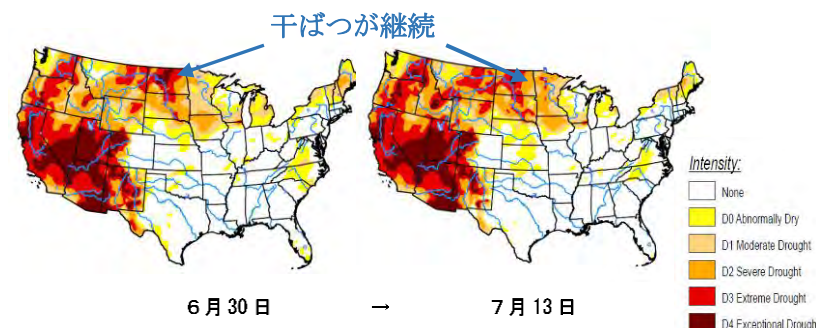


表 米国の小麦輸出国別輸出量(輸出検証高)

(万トン)

2021年6月			2021年1月～6月			2020年1月～12月		
国名	検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)
メキシコ	27.5	16.1	メキシコ	187.9	15.0	フィリピン	329.8	13.0
ナイジェリア	23.2	13.6	中国	153.2	12.2	メキシコ	287.3	11.3
フィリピン	22.6	13.3	フィリピン	148.4	11.8	日本	255.6	10.1
日本	16.3	9.5	日本	117.2	9.3	中国	210.3	8.3
韓国	11.5	6.7	韓国	111.5	8.9	韓国	140.2	5.5
その他	69.4	40.7	その他	536.9	42.8	その他	1,311.9	51.7
合計	170.5	100.0	合計	1255.1	100.0	合計	2,535.2	100.0

注1. 6月の輸出検証高は、6月10、17、25、7月1日の合計値

注2. 2021年累積輸出検証高は、2021年1月7日～7月1日の合計

注3. 2020年の累積輸出検証高は、2020年1月2日～12月31日の合計

資料: USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2021年7月19日)より作成。

< カナダ > 作付面積減に加え高温乾燥で減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、小麦生産地のカナダ平原三州の大部分で高温、強風、干ばつにより単収が低下することから、2021/22年度の生産量は前月予測から0.5百万トン下方修正され、31.5百万トンと前年度に比べ10.5%減少の見込み。

カナダ統計局「Principal Field Crop Areas June 2021」(2021.6.29)によれば、2021/22年度の小麦の作付面積は、菜種等への生産のシフトにより、前年度より6.5%減少の9.5百万ヘクタール。内訳は、春小麦が前年度に比べ8.1%減少の6.7百万ヘクタール、デュラム小麦が同2.8%減少の2.2百万ヘクタール、冬小麦が同1.4%減少の0.5百万ヘクタール。なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2021.6.18)によれば、意向面積調査をもとにした同年度の生産量は、デュラム小麦が6.0百万トン、普通小麦が25.1百万トンの計31.1百万トンの見込みである。

各州政府の報告によれば、やや良から良の作柄評価は、アルバータ州で7月13日現在、春小麦が38.0%(6月28日時点70.8%)、デュラム小麦が32.2%(同48.2%)と熱波と降雨不足から前週より低下した。サスカチュワン州でも、厳しい高温、乾燥天候が続く、7月12日現在の同作柄評価は、冬小麦が35%(2週間前46%)、春小麦が25%(同58%)、デュラム小麦が25%(同45%)と低下。今後十分な降雨がなければ、高温・乾燥の継続により単収が減少するとみられている。マニトバ州では高温で通常より穀物の生長が早まる一方で、土壌水分量が減少している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の下方修正等から、前月に比べ0.5百万トン下方修正され、23.0百万トンの見込み。カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021年5月の輸出量は、普通小麦が179.2万トンで、中国(24.1%)、インドネシア(14.3%)の順。デュラム小麦は54.3万トンで、モロッコ(24.7%)、アルジェリア(23.5%)の順。2020/21年度(2020年8月～2021年7月)の8月から5月の輸出量は普通小麦が1,674.3万トンで、中国(15.7%)、インドネシア(11.1%)。デュラム小麦が536.4万トンで、イタリア(25.7%)、モロッコ(19.9%)の順。

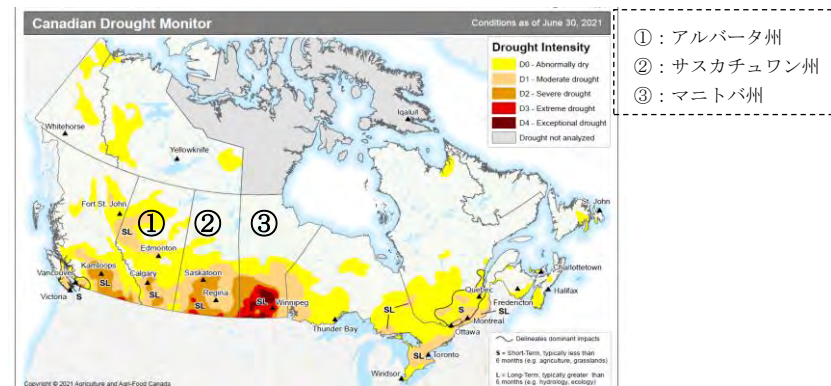
小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.7	35.2	31.5 (31.1)	▲ 0.5	▲ 10.5
消費量	9.3	9.9	9.2 (8.9)	-	▲ 7.1
うち飼料用	4.2	4.7	4.0 (4.5)	-	▲ 14.9
輸 出 量	24.6	27.5	23.0 (21.9)	▲ 0.5	▲ 16.4
輸 入 量	0.7	0.6	0.7 (0.1)	-	27.3
期末在庫量	5.5	3.8	3.8 (5.1)	-	-
期末在庫率	16.2%	10.2%	11.9% (16.4%)	0.2	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	9.20 (9.22)	-	▲ 8.2
単収(t/ha)	3.38	3.51	3.42 (3.37)	▲ 0.06	▲ 2.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(18 June 2021)

図 カナダの平原三州の干ばつ状況（6月30日現在）



資料：AAFC 「Canadian Drought Monitor」(2021. 6. 30)

写真：サスカチュワン州の小麦圃場(6月30日)



春小麦の圃場。
降雨が必要とされているが、現在のところ、生育への影響は深刻な状態ではない。

< 豪州 > 降雨に恵まれ、初期生育は良好

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積は減少するものの、単収が上昇することから、前月予測から1.5百万トン上方修正され、28.5百万トンの見込み。特に小麦生産地帯の西オーストラリア州（WA州）とニューサウスウェールズ州（NSW州）で、作付け前と6月に十分な降雨に恵まれ、発芽と苗立ちは良好となり、6月26日現在、良好な生育状態となっており、単収が平均値を上回っている。

7月上旬も生産地域で降雨に恵まれ生長が促進され、7月8日付けの3ヶ月予測でも、ほとんどの生産地域で8月から10月にかけて平均以上の降雨となる見通し。

一方、豪州農業資源経済科学局（ABARES）「Australian Crop Report」(2021.6.8)によれば、2021/22年度の生産量は前年度から17%減少し27.8百万トンとなるものの、2020/21年度までの10年平均を上回ると見込まれている。このうち、主要生産州別の生産量は、WA州では、前年度から5%増加し、過去5年平均を17%上回る10.0百万トンの見込み。NSW州では、生産量は前年度より3%減少するものの、過去5年平均を42%上回る8.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出価格は、輸出余力が十分なことと天候が良好で2021/22年度産の生育が順調なことから前月より低下した。

2021/22年度の輸出量は、豊作が見込まれることから、前月予測から0.5百万トン上方修正され20.5百万トンの見込み。生産量が減少する米国、カナダの輸出量の低下に伴い、特にアジアのホワイト小麦市場で豪州産の需要が高まる可能性がある。

豪州統計局によれば、2021年5月の輸出量は266万トンと4月の249万トンを上回った。輸出先国は、インドネシア(17%)、ベトナム(16%)、ケニア(8%)の順。

現地情報会社によれば、例年になく多くの豪州産小麦がアフリカや中東地域に輸出されているが、その要因はとうもろこし価格の高騰と豪州産小麦の価格下落とみられている。豪州にとって、豊作であった2020/21年度の小麦輸出の好機となっている。

小麦－豪州（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	14.5	33.0	28.5 (29.3)	1.5	▲ 13.6	
消費量	8.0	8.5	8.0 (7.8)	-	▲ 5.9	
うち飼料用	4.5	5.0	4.5 (4.2)	-	▲ 10.0	
輸 出 量	9.1	23.0	20.5 (19.4)	0.5	▲ 10.9	
輸 入 量	0.9	0.2	0.2 (0.3)	-	-	
期末在庫量	2.7	4.4	4.6 (5.9)	-	4.6	
期末在庫率	15.6%	13.9%	16.1% (21.6%)	▲ 0.3	2.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	9.86	13.00	13.10 (13.1)	▲ 0.10	0.8	
単収(t/ha)	1.47	2.54	2.18 (2.14)	0.13	▲ 14.2	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)

IGC 「Grain Market Report」(24 June 2021)

写真 豪州のデュラム小麦の圃場(2021年6月30日)



ニューサウスウェールズ州コリアンバリー近郊のデュラム小麦。
この地域ではこれまでの6週間で
平年以上の降雨量があった。
このため、土壌水分量が飽和状態に
あることを懸念する生産者も出始
めているが、7月4日の週から乾燥
天候となる見通しのため、過剰な土
壌水分量は問題とならない見通し。

表 豪州の小麦輸出先国別輸出量

(万トン)

2021年5月			2021年1月～5月		
国名	輸出量	シェア(%)	国名	累積輸出量	シェア(%)
インドネシア	45.8	17.2	インドネシア	247.2	20.0
ベトナム	42.3	15.9	ベトナム	157.9	12.7
ケニア	21.8	8.2	フィリピン	84.9	6.9
フィリピン	17.7	6.6	タイ	71.1	5.7
南アフリカ	16.1	6.0	中国	59.6	4.8
その他	122.5	46.0	その他	618.3	49.9
合計	266.2	100.0	合計	1,239.0	100.0

資料：豪州統計局のデータをもとに農林水産省で加工

< EU > 生育は順調もフランス等で降雨による収穫に遅れ

【生育・生産状況】EU委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.6.24)によれば、2021/22年度の生産量(EU27)は、前月予測から0.4百万トン下方修正され、134.6百万トンの見込み。また、農業市場情報システム(AMIS)「Market Database Supply and Demand Overview」(2021.7.8)によれば、英国の2021/22年度の普通小麦の生産量は前月予測からの変更は無く、14.5百万トンの見込み。

品種別の生産量(EU27)は、普通小麦が前月に比べ、ポーランド、リトアニア等で下方修正されたものの、フランス、ルーマニア等で上方修正され、126.8百万トンと前年度を13.7%上回る見込み。一方、デュラム小麦は、ギリシャ等で下方修正されたものの、イタリア、フランス等で上方修正され、7.8百万トンと同8.2%上回る見込み。

各国の生育状況は、6月上旬、フランス、ドイツ、英国等の欧州北西部では温暖な天候となり、小麦の成熟が進んだものの、同月中旬以降、継続的な降雨となり乾燥が必要な収穫に向けて懸念が生じた。なお、7月中旬、ドイツ等で洪水が発生したが生産地には影響はなかった模様。また、スペイン、ポルトガル等では5月から乾燥が続いたが、スペインでは降雨により乾燥が一時緩和され、作物へ影響はない模様。

「FranceAgriMer」(2021.7.12)によれば、主要生産国であるフランスの収穫進捗率は普通小麦が4%、デュラム小麦が40%とそれぞれ前年度の42%と75%を下回っている。また、生育状況の良～やや良の割合は、普通小麦が76%、デュラム小麦が66%とそれぞれ前年度の55%、62%を上回っており、生育状況は良好である。

【貿易情報・その他】USDAによれば2021/22年度の輸出量は、輸出余力の増加により、前月から1.0百万トン上方修正され34.7百万トンの見込み。

EU委員会によれば、2020年7月～2021年4月までの輸出量は、普通小麦が前年同期を25.5%下回る2,302.9万トン、デュラム小麦が同48.9%下回る56.7万トン。

なお、2021年4月の輸出先国は、普通小麦が、エジプト(23.3%)、アルジェリア(18.4%)、デュラム小麦は、チュニジア(38.1%)、アルジェリア(21.3%)の順。

小麦－EU（冬小麦を主に栽培）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	154.3	135.6	153.0	(141.1)	1.4	12.8
消費量	122.7	117.6	123.9	(104.4)	0.5	5.4
うち飼料用	53.3	48.1	53.2	(41.0)	0.5	10.6
輸 出 量	41.4	31.2	34.7	(26.2)	1.0	11.4
輸 入 量	7.3	8.4	7.8	(6.4)	▲ 0.4	▲ 7.1
期末在庫量	15.3	10.5	12.7	(10.6)	▲ 0.8	20.9
期末在庫率	9.3%	7.1%	8.0%	(8.1%)	▲ 0.1	0.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	26.16	24.47	25.71	(24.12)	0.08	5.1
単収(t/ha)	5.90	5.54	5.95	(5.64)	0.01	7.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
IGC 「World Agricultural Production」(12 July 2021) 表内のデータはEU27+英国
「Grain Market Report」(24 June 2021) ()内はEU27ヶ国のデータ

写真 フランス、イル・ド・フランス地域の小麦(食用)圃場(2021年7月8日)



開花が終了し、実が膨らみ始めており、穂を潰すとミルク状の白い液体が出てくる。小麦の丈は160cmに達しており、穂の密度が高く、粒も大きく、生長は良好である。

本年度は、冷害・雨不足が発生しなかったことから、収穫量は例年以上が見込まれる。また、この圃場では、約6年周期で輪作を実施しており、本年は例年と比較しても、土壌の状態が良好だった。

現在、病気や害虫の懸念はない。

表 EUの普通小麦輸出先国(2021年4月、2020年7月～2021年4月、2019年7月～2020年6月)

	2021年4月			2020年7月～2021年4月			2019年7月～2020年6月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	エジプト	50.4	23.3	アルジェリア	503.2	21.9	アルジェリア	607.1	16.9
2	アルジェリア	39.9	18.4	モロッコ	224.0	9.7	サウジアラビア	335.6	9.4
3	モロッコ	37.9	17.5	ナイジェリア	191.7	8.3	モロッコ	263.2	7.3
4	ナイジェリア	11.3	5.2	中国	177.3	7.7	エジプト	229.4	6.4
5	サウジアラビア	11.0	5.1	サウジアラビア	169.8	7.4	中国	222.0	6.2
6	その他	66.0	30.5	その他	1,036.9	45.0	その他	1,932.1	53.8
計		216.6	100.0		2,302.9	100.0		3,589.5	100.0

資料：欧州委員会「EU Cereals export and import」(2021.6.17)をもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2021.7.5)によれば、2021/22 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.6%増の 136.4 百万トンの見込み。内訳は、冬小麦が前年度比 1.4%増の 128.6 百万トン、春小麦が同 4.9%増の 7.8 百万トン。

同年度の冬小麦は、6 月 22 日時点で 20.9 百万ヘクタールの収穫が終了している。各小麦産地の状況から、同年度の小麦生産量は史上最高になると見込まれている。

中国中央气象台(2021.7.9)によれば、冬小麦は、山西省、河北省、山東省、四川省等で収穫が終了し、陝西省、寧夏自治区等の大部分で収穫が終了。また、春小麦は、東北部の黒竜江省等で開花期、甘粛省等で乳熟期から成熟期に入っている。なお、7 月中～下旬の河南省の洪水については、収穫が終了しており影響はない模様。

7 月 7 日現在の春小麦の作柄評価は、一、二類苗(※)の比率が 39%、59%となり、前月(40%、60%)に比べ、一類、二類苗とも 1 ポイント低下した。

【貿易情報・その他】中国農産品供需形勢分析月報(5 月)によれば、5 月中・下旬以降の新穀小麦の供給の開始で国内市場における小麦の供給量は充分となり、前年比でやや高いものの、中国国内の卸売価格は全体的に安定した。新穀小麦については、国内市場での買付意欲が高く、価格も上昇したが、今後の新穀小麦の供給量増加で価格は安定する見込み。なお、依然として、とうもろこし価格は小麦価格より高い。

中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の実産量、輸入量とも前月予測からの変更はなく、それぞれ対前年度比 1.17%減少の 145.5 百万トン(飼料用は同 5.26%減少の 36.0 百万トン)、同 23.3%減少の 8.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2021 年 1 月から 5 月の小麦輸入量は前年同時期(230.9 百万トン)の 98.9%増の 459.2 万トンとなった。同期間の輸入先国は、カナダ(27.8%)、豪州(27.1%)、米国(26.2%)の順となっている。なお、1 月から 5 月の輸入先国の推移は、4 月から米国が増加傾向、フランスが同期間を通じて減少傾向、豪州は 3 月にかけて大きく減少したものの、4、5 月と増加している。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	133.6	134.3	136.0	(130.2)	-	1.3
消 費 量	126.0	150.0	148.0	(132.0)	-	▲ 1.3
うち飼料用	19.0	40.0	35.0	(21.0)	-	▲ 12.5
輸 出 量	1.1	0.8	1.0	(1.3)	-	25.0
輸 入 量	5.4	10.5	10.0	(7.9)	-	▲ 4.8
期末在庫量	151.7	145.6	142.6	(139.8)	-	▲ 2.1
期末在庫率	119.4%	96.6%	95.7%	(104.9%)	-	▲ 0.8
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.00	(23.8)	-	▲ 1.6
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.91	(5.71)	-	3.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
IGC 「Grain Market Report」(24 June 2021)

(百万トン) 中国の小麦輸入先国の推移(2021年1月～同年5月)

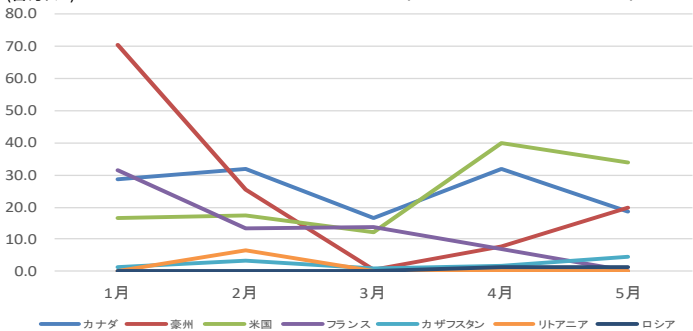


表 中国の小麦輸入先国(2021年5月、2021年1月～2021年5月、2020年1月～2020年12月)

	2021年5月			2021年1月～2021年5月			2020年1月～2020年12月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	米国	34.1	43.4	カナダ	127.5	27.8	フランス	238.3	29.2
2	豪州	20.0	25.5	豪州	124.5	27.1	カナダ	229.7	28.2
3	カナダ	18.6	23.7	米国	120.3	26.2	米国	178.4	21.9
4	カザフスタン	4.5	5.8	フランス	65.4	14.2	豪州	109.0	13.4
5	ロシア	1.3	1.7	カザフスタン	12.0	2.6	リトアニア	33.3	4.1
6	フランス	0.0	0.0	リトアニア	6.6	1.4	カザフスタン	19.2	2.4
7	リトアニア	0.0	0.0	ロシア	2.9	0.6	ロシア	7.2	0.9
計		78.5	100.0		459.2	100.0		815.2	100.0

出典：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

※一類苗：生育が正常な苗、二類苗：通常の苗よりやや小さく弱まっている苗

< ロシア > 2年連続豊作の見通しも輸出税継続

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2021/22年度の生産量は、前月予測に比べ1.0百万トン下方修正され、前年度に比べ0.4%減少の85.0百万トンの見込み。

品種別の内訳は、冬小麦は単収が上昇するものの、収穫面積の減少から、前月予測に比べ0.5百万トン下方修正され64.0百万トン、春小麦は収穫面積が増加するものの、単収が低下することから、同0.5百万トン下方修正され、21.0百万トンの見込み。

冬小麦は、北カフカス連邦管区や南連邦管区で5月下旬から6月初旬にかけて、降雨に恵まれ単収が上昇した。一方、中央管区や沿ボルガ連邦管区で2月下旬から3月上旬に急激な気温上昇後、気温低下から土壌水分が再凍結したことで、小麦が枯死し、収穫面積が減少した。また、春小麦は、枯死した冬小麦に代わり春小麦を再作付したことで収穫面積が増加したものの、6月の中央管区での高温・乾燥天候により単収が下方修正された。なお、ロシア連邦統計庁(2021.6.30)によれば、冬小麦を含む冬穀物の枯死面積は96.4万ヘクタールと前年度(14.4万ヘクタール)を大きく上回った。

ロシア農業省によれば、2021/22年度の小麦生産量(6月8日時点)は81.0百万トンの見込み。また、ロシア国営分析機関「農業分析センター」植物栽培局長によれば、ロシアの穀物生産量は2020/21年度に及ばないものの、過去5年間を上回る予想である。同局長は、種子、農機、肥料、栽培技術の改良を近年の豊作の要因としている。

ロシア気象センターによれば、作柄評価は、ロシア・ヨーロッパ部の北部及び南部地域とも、概ね良好及び並であるが、一部で土壌水分不足となっている。また、ロシア・アジア部でも概ね作柄は良好である。

【貿易情報・その他】ロシア税関統計によれば、2020/21年度(2020年7月～2021年6月)の7月から5月の輸出量は3,581.0万トンと前年度に比べ6.0%増加している。

輸出先国は、エジプト(22.1%)、トルコ(18.1%)、バングラデシュ(4.8%)の順。

なお、7月14～20日の可変輸出関税額は、国際穀物価格の上昇により6月当初の28.1ドル/トンから上昇し、39.3ドル/トンとなっている。

小麦－ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	73.6	85.4	85.0	(83.5)	▲ 1.0	▲ 0.4
消費量	34.5	38.5	42.5	(42.9)	▲ 0.5	10.4
うち飼料用	17.0	19.0	19.0	(18.7)	▲ 0.5	-
輸 出 量	34.5	38.5	40.0	(38.9)	-	3.9
輸 入 量	0.3	0.5	0.5	(0.3)	-	11.1
期末在庫量	7.2	12.0	15.0	(11.0)	▲ 0.4	24.9
期末在庫率	10.5%	15.6%	18.2%	(13.4%)	▲ 0.5	2.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	27.31	28.68	29.00	(28.7)	▲ 0.30	1.1
単収(t/ha)	2.70	2.98	2.93	(2.84)	▲ 0.01	▲ 1.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
IGC 「Grain Market Report」(24 June 2021)

図 ロシアの小麦輸出量の推移(月別)

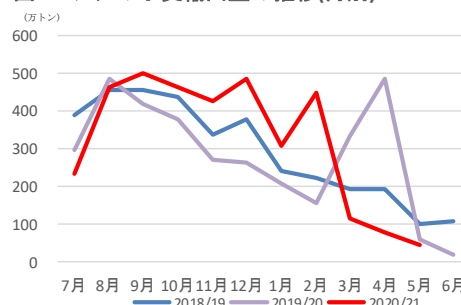


表 可変輸出関税額(小麦)

期間	関税額
2021.06.02-06.08	28.1ドル/トン
2021.06.09-06.15	29.4ドル/トン
2021.06.16-06.22	33.3ドル/トン
2021.06.23-06.29	38.1ドル/トン
2021.06.30-07.06	41.3ドル/トン
2021.07.07-07.13	41.2ドル/トン
2021.07.14-07.20	39.3ドル/トン

輸出通関の前週の市況(ノヴォロシスクの平均FOB価格)が200ドル/トンを超えた場合に、超えた価格に70%の関税がかかる。

表 ロシアの小麦輸出先国(2021年5月、2020年7月～2021年5月、2019年7月～2020年6月)

	2021年5月		2020年7月～2021年5月		2019年7月～2020年6月	
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	非公表	26.9	58.8	エジプト	791.2	22.1
2	ナイジェリア	6.9	15.1	トルコ	648.1	18.1
3	カザフスタン	3.7	8.0	バングラデシュ	173.4	4.8
4	リビア	3.0	6.6	不明	162.4	4.5
5	アルメニア	1.7	3.7	パキスタン	157.0	4.4
6	その他	3.5	7.8	その他	1,649.0	46.0
計		45.7	100.0		3,581.0	100.0

資料：ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成
(注)2020/21年度は、2020年7月から2021年6月

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国、ロシアで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

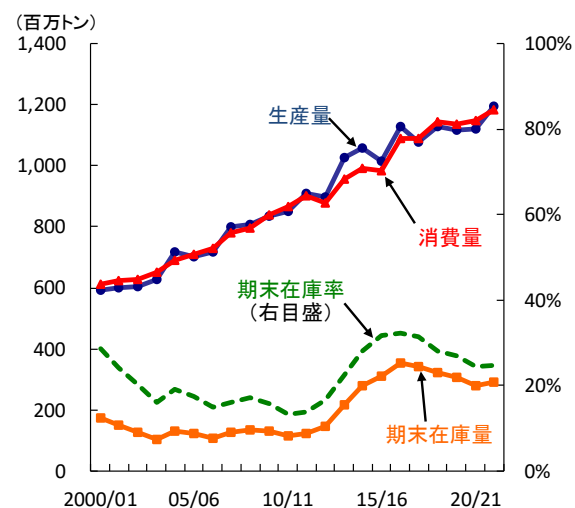
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・EU等で下方修正も、米国、メキシコ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・メキシコで下方修正も、米国、ロシアで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021.7.12）をもとに農林水産省にて作成

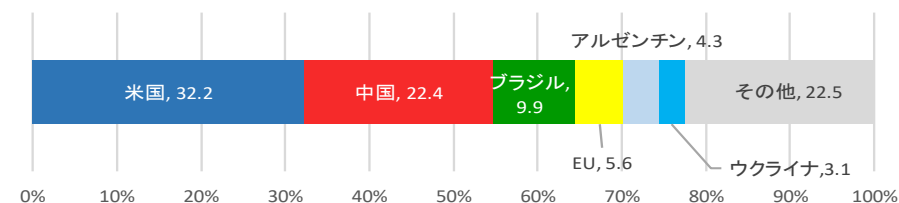
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

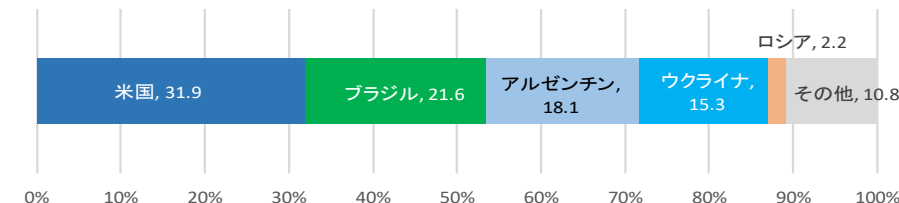
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,117.6	1,120.7	1,194.8	5.0	6.6
消 費 量	1,134.7	1,146.3	1,183.5	2.4	3.2
うち飼料用	715.8	727.3	747.6	▲ 0.7	2.8
輸 出 量	172.4	183.1	198.8	1.4	8.6
輸 入 量	167.6	182.2	187.7	▲ 1.8	3.0
期末在庫量	305.5	279.9	291.2	1.8	4.0
期末在庫率	26.9%	24.4%	24.6%	0.1	0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 July 2021)

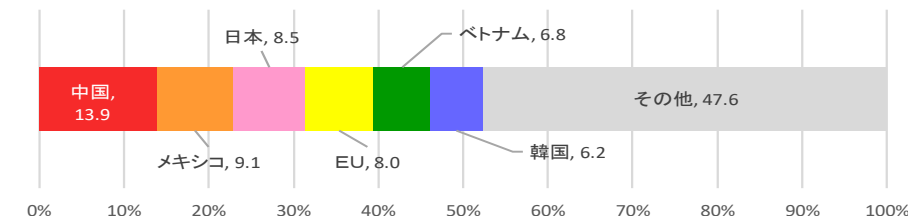
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,194.8百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(198.8百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(187.7百万トン)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 収穫面積増で増産も輸出は減少見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、「作付面積調査」（2021.6.30）による収穫面積の上方修正に伴い、前月予測から4.4百万トン上方修正され、前年度より6.9%増の385.2百万トンとなり、史上最高の見込み。「Crop Progress」（2021.7.19）によれば、主要18州におけるシルキング進捗率は56%と、前年度同期（55%）及び過去5年平均（52%）より進んでいる。ドウ進捗率は、8%と前年度同期（8%）と並び、過去5年平均（7%）より進んでいる。作柄評価は、コーンベルト北西部の5月から6月上旬の高温乾燥の影響により、良からやや良が65%と前年度同期（69%）を下回っている。7月中旬現在、受粉期を迎えているが、受粉期の高温乾燥の継続に注意が必要。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、とうもろこし及び飼料価格上昇にも関わらず、2021年3月～5月期の畜産向け需要が旺盛であったことから、前月予測から飼料用需要が0.6百万トン上方修正され、前年度並みとなり、国内のワクチン接種の進展に伴い、自動車を運転する機会が増加することで、燃料用エタノールの需要増からエタノール向け需要の増加により、前年度より1.2%増の313.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の上方修正及びブラジルの2020/21年度の生産量・輸出量の下方修正による輸出競争力の減退に伴い、前月予測から1.3百万トン上方修正されたものの、主にアルゼンチン、ウクライナ等との激しい輸出競争により前年度より12.3%減の63.5百万トンの見込み。

なお、USDAによれば、輸出検証高（2021年1月7日～7月1日）は、43.0百万トンであり、内訳は中国（12.4百万トン）、日本（8.0百万トン）、メキシコ（8.0百万トン）、韓国（3.1百万トン）の順である。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、供給量の増加が需要量の増加を上回るため、前月予測から1.9百万トン上方修正され、前年度より32.4%増の36.4百万トンの見込み。しかし、期末在庫率は9.6%で依然として低水準の見込み。

とうもろこし－米国

（単位：百万トン）

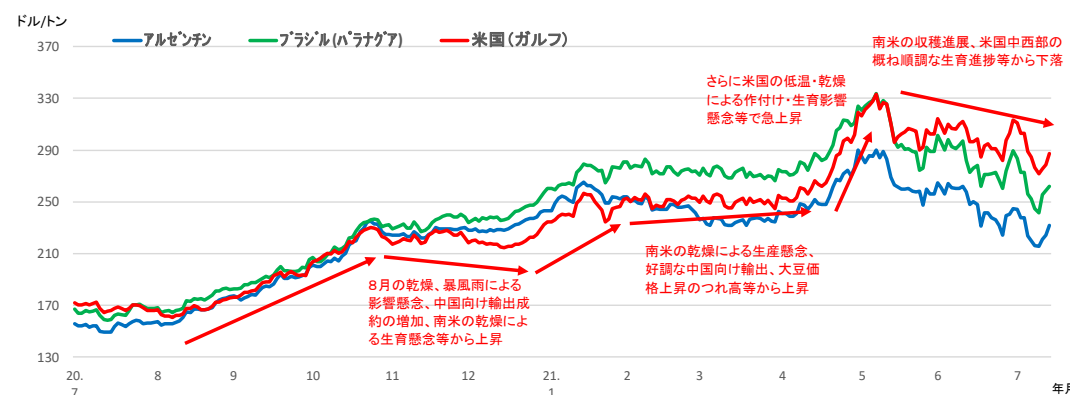
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	346.0	360.3	385.2	4.4	6.9
消費量	309.6	309.8	313.5	0.6	1.2
うち飼料用	149.8	145.4	145.4	0.6	-
エタノール用等	123.4	128.3	132.1	-	3.0
輸出量	45.1	72.4	63.5	1.3	▲ 12.3
輸入量	1.1	0.6	0.6	-	-
期末在庫量	48.8	27.5	36.4	1.9	32.4
期末在庫率	13.7%	7.2%	9.6%	0.5	2.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	32.92	33.37	34.19	0.40	2.5
単収(t/ha)	10.51	10.79	11.27	-	4.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 July 2021）

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2020/21 年度冬とうもろこし生産見通し下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より 26.9%増の 118.0 百万トンとなり、史上最高の見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.7.8)によれば、2020/21 年度の収穫が終了した夏とうもろこしの生産量は、乾燥による作付け遅延と生育期の乾燥の影響により、前年度比 3.0%減の 24.9 百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされ、成熟期を迎えた冬とうもろこしの生産量は、4 月～5 月の南部の主産地での長引く乾燥天候に加え、6 月末のパラナ州等南部の州の霜害の影響による単収の下方修正により、前月予測から 3.2 百万トン下方修正され、前年度比 11.0%減の 68.5 百万トンが見込まれる。合計では前年度比 9.0%減の 93.4 百万トンの見込み。(P.21 大豆—ブラジルのクロープカレンダー参照)。

2020/21 年度について、冬とうもろこしの主産地である中西部のマトグロッソ州では、7 月 16 日現在で収穫率は 52%となり、過去 5 年平均より 16 ポイント遅れている。冬とうもろこしは例年 6～8 月に収穫されるが、大豆の収穫遅れに伴う作付けの遅れにより収穫作業も遅延している。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より 6.6%増の 73.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加により前年度より 53.6%増の 43.0 百万トンの見込み。なお、2020/21 年度の実輸出量は、生産量の下方修正に伴い、前月予測から 5.0 百万トン下方修正され、28.0 百万トンの見込み。一方、輸入量は 1.7 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021 年 1～6 月の輸出量は 3.6 百万トンで、前年同期と比べ 12.6%増となっている。内訳は、1 位がエジプトで 78 万トン、2 位がイランで 51 万トン、3 位がベトナムで 50 万トンとなっている。

とうもろこし—ブラジル

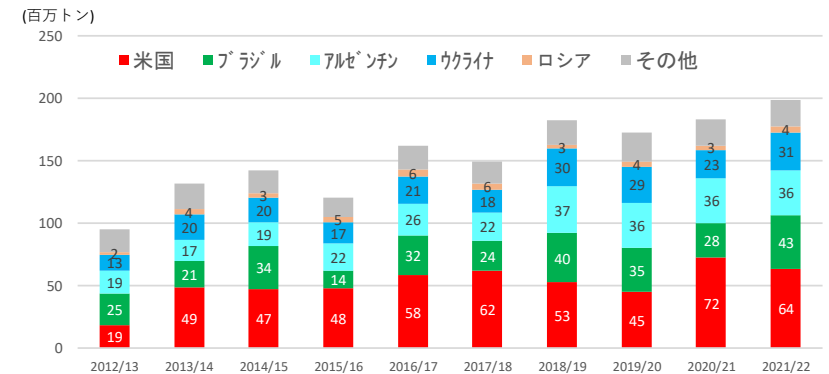
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが 3/4 を占め、夏とうもろこしは 1/4)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	102.0	93.0	118.0 (117.4)	—	26.9
消 費 量	68.5	68.5	73.0 (76.2)	—	6.6
うち飼料用	58.5	58.5	62.0 (55.7)	—	6.0
輸 出 量	35.2	28.0	43.0 (40.0)	—	53.6
輸 入 量	1.7	3.5	1.7 (0.5)	—	▲ 51.4
期末在庫量	5.2	5.2	8.9 (6.0)	—	70.7
期末在庫率	5.0%	5.4%	7.7% (5.2%)	—	2.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.50	19.88	20.80 (20.06)	—	4.6
単収(t/ha)	5.51	4.68	5.67 (5.85)	—	21.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
IGC 「Grain Market Report」(24 June 2021)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」 (2021. 7. 12) のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 増産見通しも輸出税継続

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より 5.2%増の 51.0 百万トンの見込み。なお、2020/21 年度の生産量は、収穫面積及び単収の上方修正により前月予測から 1.5 百万トン上方修正され、48.5 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所（2021.7.15）によれば、2020/21 年度の収穫進捗率は 62%で、過去 5 年平均に比べ 5 ポイント遅れている。遅播きの単収が予想を上回り、生産量は 48.0 百万トンの見込み。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ 14.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加等により前年度より 1.4%増の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年 1～5 月の輸出量は 13.3 百万トンで、前年同期（15.5 百万トン）より 13.7%減。内訳は、1 位がベトナム 2.6 百万トン、2 位がエジプト 1.6 百万トン、3 位がマレーシア 1.3 百万トン。引き続き、パラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7 %から 12%へ引き上げ、その後継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)	
生 産 量	51.0	48.5	51.0 (59.3)	-	5.2	
消 費 量	13.5	14.5	14.5 (22.2)	-	-	
うち飼料用	9.5	10.5	10.5 (17.3)	-	-	
輸 出 量	36.3	35.5	36.0 (35.5)	-	1.4	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	3.6	2.1	2.6 (5.9)	-	24.1	
期末在庫率	7.3%	4.2%	5.2% (10.2%)	-	1.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.30	6.20	6.25 (7.85)	-	0.8	
単収(t/ha)	8.10	7.82	8.16 (7.56)	-	4.3	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
IGC 「Grain Market Report」(24 June 2021)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこし圃場の風景
(7月2日撮影)



< 中国 > 収穫面積増で増産見通したが、飼料用需要も増加

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、価格高騰と政府の増産政策による収穫面積の増加から前年度より2.8%増の268.0百万トンの見込み。

中国中央气象台(2021.7.9)によれば、7月上旬現在、東北地区の春とうもろこしは6月の気温が例年より低く、一部の生育がやや遅れたものの、おおむね七葉期から節間伸長期に入っている。河南省等の夏とうもろこしは6月の播種期の好天に恵まれ、三葉期から七葉期に入っている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、ASF発生の影響も残るものの、養豚数の回復とレストランの食品残渣や低品質の飼料でまかなっていた小規模畜産経営から大規模経営に移行したことからとうもろこしを主原料に切り替えたため、飼料用消費量が増加し、前年度より1.7%増の294.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ26.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～5月の輸入量は11.7百万トンで、前年同期の4.2倍となり、前年の年間輸入量に匹敵する数量。内訳は、米国産6.7百万トン(57%)、ウクライナ産5.0百万トン(43%)で、前年同期はウクライナ産が94%を占めたが、米国産の輸入が大幅に増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報5月号」によると、5月の国内流通価格は、黒竜江省等東北地区のとうもろこし生産地は春耕の繁忙期に入っており、とうもろこしの売買は低調で、かつ穀物販売業者の売り惜しみ意向が高く、2,980元/トンと上昇した。一方、5月の外国産価格も、ブラジルの減産予想による国際価格の上昇に伴い、大幅に上昇したことから、内外価格差は縮小した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

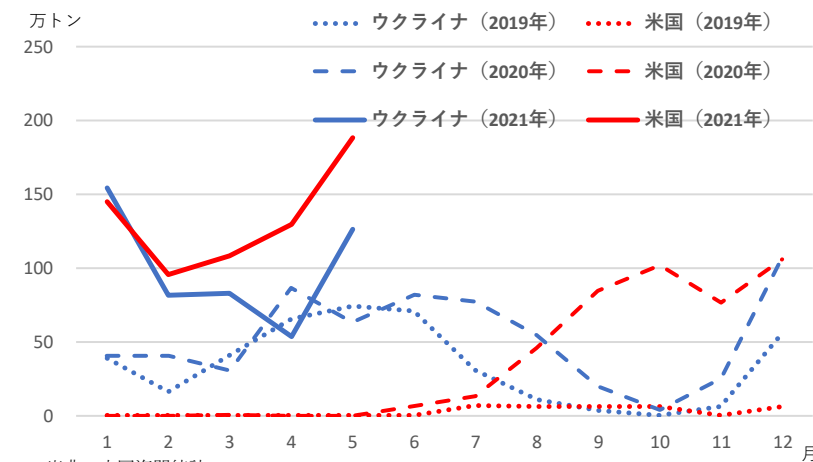
とうもろこしー中国

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	260.8	260.7	268.0 (272.8)	-	2.8
消費量	278.0	289.0	294.0 (299.2)	-	1.7
うち飼料用	193.0	206.0	211.0 (194.0)	-	2.4
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	7.6	26.0	26.0 (18.0)	-	-
期末在庫量	200.5	198.2	198.2 (182.1)	-	▲ 0.0
期末在庫率	72.1%	68.6%	67.4% (60.8%)	-	▲ 1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	42.00 (42.90)	-	1.8
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.38 (6.36)	-	0.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
IGC 「Grain Market Report」(24 June 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比  前月比 

・エジプトや米国で下方修正されたことから前月から下方修正された。史上最高の見込み。

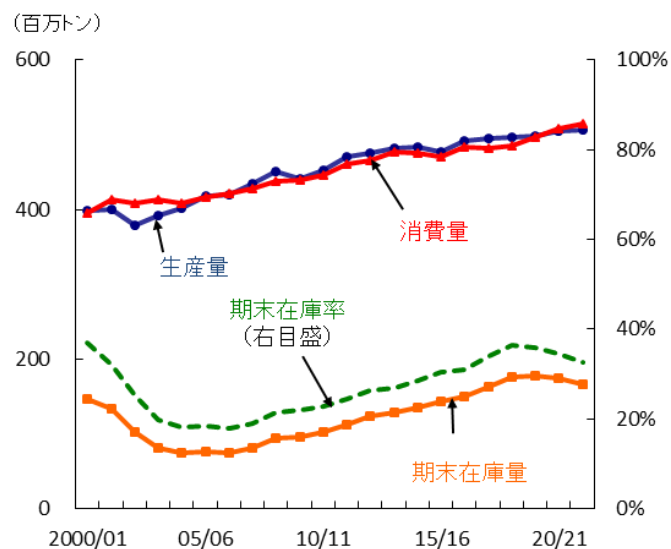
消費量 前年度比  前月比 

・米国等で下方修正されたことから前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

・米国等で上方修正されたことから前月から上方修正された

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」（2021.7.12）をもとに農林水産省にて作成

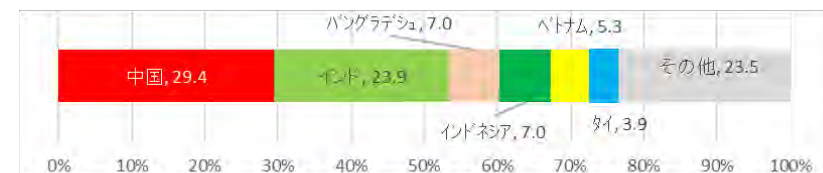
◎世界のコメ需給

（単位：百万精米トン）

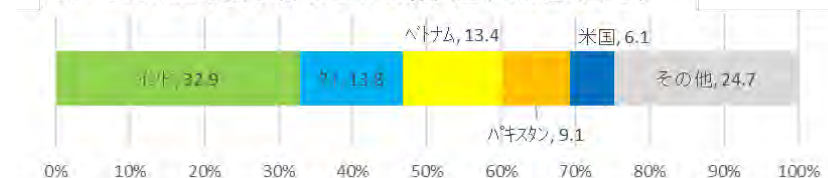
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	497.7	504.9	506.0	▲ 0.6	0.2
消 費 量	496.5	507.9	514.0	▲ 0.5	1.2
輸 出 量	43.4	49.1	47.1	0.1	▲ 4.0
輸 入 量	42.3	45.0	45.4	0.7	0.9
期末在庫量	177.8	174.9	167.0	▲ 1.4	▲ 4.5
期末在庫率	35.8%	34.4%	32.5%	▲ 0.2	▲ 2.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 July 2021)

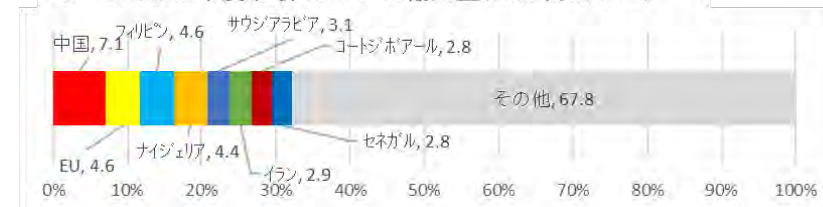
○ 2021/22年度 世界のコメの生産量（506.0百万トン）（単位：%）



○ 2021/22年度 世界のコメの輸出量(47.1百万トン)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量(45.4百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > カリフォルニア州の乾燥や作付面積の減少で減産見通し

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比12.4%減の6.3百万トンの見込み。このうち、中・短粒種の生産量は全体の約24%を占める。同「Rice Outlook」(2021.7.14)によれば、USDAが6月30日に発表した作付面積において、ほぼ全て米国南部で生産される長粒種は3月末時点とほぼ同じであったが前年同期比では11%減少。カリフォルニア州で米国の3分の2が生産される中・短粒種の作付面積は、3月末の作付意向調査時点より1.9万ヘクタール減少し、前年度比17%減少の23.6万ヘクタール。カリフォルニア州の深刻な干ばつと灌漑用の貯水量の極端な減少が主な要因と見られる。

同「Crop Progress」(2021.7.19)によれば、主要生産6州の7月18日現在の出穂進捗率は30%で過去5年(2016-2020年)平均(36%)より6ポイント遅れている。主要6州の作柄評価は、良からやや良が72%と前年度同期(73%)より1ポイント劣っている。そのうちカリフォルニア州は良からやや良が90%となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、消費量は前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比0.6%増の4.9百万トンの見込み。輸出量は前月予測から0.1百万トン上方修正され、対前年度比3.1%減の2.9百万トンの見込み。生産量の減少に加えて、特に米国産長粒種の価格が他の輸出国に比べて高いため輸出競争力に乏しいことが要因と見られる。輸入量は前月予測から変更なく対前年度比12.7%増の1.2百万トンの見込み。

同「Rice Outlook」(2021.7.14)によれば、今年の収穫量の減少予想からカリフォルニア米の精米価格がこの一か月で上昇し、6月29日までの週の地中海向けカリフォルニア米(1等、砕米4%混入、国内精米)の価格は、6月8日までの週より80ドル/トン上昇し、カリフォルニア州が深刻な干ばつにみまわれていた2014年3月以来の高値となる1,100ドル/トンとなった。一方、6月29日までの週のイラク向け長粒種(2等、砕米4%混入)の価格については、6月8日までの週と変わらず630ドル/トンとなっている(P18の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

コメー米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米のコメ生産に占める生産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)

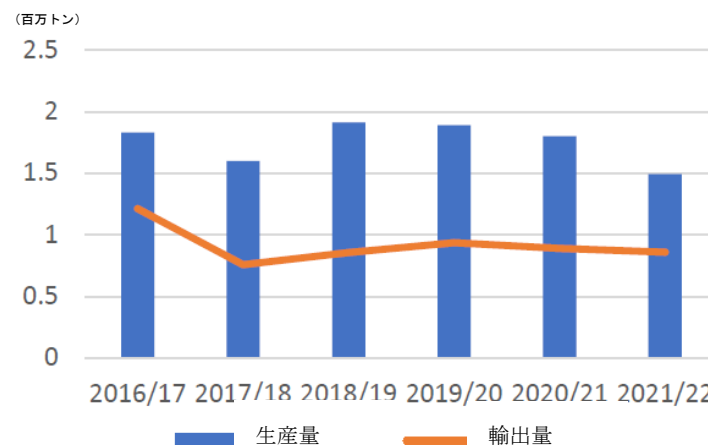
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.9	7.2	6.3	▲ 0.1	▲ 12.4
消費量	4.6	4.8	4.9	▲ 0.1	0.6
輸出量	3.0	3.0	2.9	0.1	▲ 3.1
輸入量	1.2	1.1	1.2	0.0	12.7
期末在庫量	0.9	1.5	1.3	0.1	▲ 10.3
期末在庫率	12.0%	18.8%	17.0%	0.9	▲ 1.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.00	1.21	1.06	▲ 0.02	▲ 12.4
単収(もみt/ha)	8.38	8.54	8.54	▲ 0.03	-

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)

図: 米国産中・短粒種の生産量と輸出量の推移



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2021.7.12)

< インド > 2020/21 年度の輸出量が 1,900 万トンに上方修正

【生育・生産動向】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比 0.8%減の 121.0 百万トンの見込み。同「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.7.13)によれば、インドでは南西モンスーンが急速に発生した後、東部と南部では生育に十分な降雨があり土壌水分が改善された。一方、西部では季節外れの乾燥が続いた。

インド農業省発表(2021.7.16)によると、カリフ作物の作付が進展し、コメは 16.2 百万ヘクタールであり、昨年同時期(17.4 百万ヘクタール)及び5年間平均(16.4 百万ヘクタール)よりも減少している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は前月予測からの変更はなく、対前年度比 0.9%増の 108.0 百万トンの見通し。2021/22 年度の輸出量は前月予測からの変更はなく、対前年度比 18.4%減の 15.5 百万トンの見通しも高水準。なお、2020/21 年度のインドのコメ輸出量は前月予測から 2.0 百万トン上方修正されて史上最高の 19 百万トンになる見通し。輸出ペースが強いのと輸出価格の競争力が高いことが要因と見られている。

インド商工省の輸出量データによると、2021 年 4 月のコメ全体の輸出量は 1.6 百万トン(最大はベトナム向けの 0.2 百万トン)、そのうちバスマティ米は 0.3 百万トン。

USDA「Rice Outlook」(2021.7.14)によれば、インド産米(碎米 5%混入)の 6 月 29 日までの週の価格は 6 月 8 日までの週と変わらず 385 ドル/トンであり、依然としてタイやベトナムなどアジアの他の輸出国と比較して最も競争力が高い(P18 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照)。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	118.9	122.0	121.0	(123.3)	-	▲ 0.8
消 費 量	106.0	107.0	108.0	(107.6)	-	0.9
輸 出 量	12.5	19.0	15.5	(15.2)	-	▲ 18.4
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	29.9	25.9	23.4	(24.9)	▲ 2.0	▲ 9.7
期末在庫率	25.2%	20.6%	18.9%	(20.3%)	▲ 1.6	▲ 1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.66	44.40	44.40	(44.75)	-	-
単収(もみt/ha)	4.08	4.12	4.09	(2.75)	-	▲ 0.7

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
IGC「Grain Market Report」(24 June 2021) (単収は精米t/ha)

< 中国 > 国内消費が1億5,600万トンで史上最高の見通し

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比0.5%増の149.0百万トンの見込み。

中国糧油情報センターによれば、6月末、早稲産地の大部分で出穂から乳熟期に入っており、全国早稲の一、二類苗の比率はそれぞれ16%、84%であった。各販売区の地方政府所有の備蓄倉庫は積極的に2021年度新穀早稲の契約を行っており、平均仕入れ価格は2,600元/トン程度であった。黒竜江等東北地区の一期作稲は活着から分げつ期に入っており、江蘇、安徽、湖北等の各地区は三葉から活着・分げつ期に入っている。四川、貴州、雲南、重慶等地区的の大部分は分げつから節間伸長期に入っており、全国一期作稲の一、二類苗の比率はそれぞれ35%、63%であった。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は前月予測からの変更はなく、対前年度比3.7%増の156.0百万トンの見込み。同「Rice Outlook」

(2021.7.14)によれば、2021/22年度に中国で増加が予測される消費量のほぼすべてを工業用と飼料用が占める。

USDAによれば、2021/22年度の輸出量は前月予測からの変更はなく、前年度と同じ2.4百万トンの見込み。2021/22年度の輸入量は前月予測から0.3百万トン上方修正され、対前年度比11.1%減の3.2百万トンの見込み。2021年1月から5月の5か月間で、飼料用としてのインドからの約0.4百万トンを含み2020年の輸入量の4分の3以上となる2.2百万トン以上を輸入している。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報」(2021年5月)によれば、国内市場においては、南部の生産地は夏の収穫穀物の在庫入れ替え圧力に直面しており、東北部の生産地では気温の上昇により露天でのジャポニカ粳の保存が難しいため農家の販売意欲が高まっている。一方、粳の保存コストの精米価格への転嫁や政府備蓄の最低価格買付粳の競売価格が比較的高い等の要因に支えられ、今後、国内米市場は基本的に安定すると見られている。2021年5月の全国平均品種別米卸売価格はそれぞれ早稲インディカ米3,860元/トン、晩稲インディカ米4,280元/トン、一期作ジャポニカ米4,260元/トンになっている。

※一類苗:生育が正常な苗、二類苗:通常の苗よりやや小さく弱まっている苗

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	146.7	148.3	149.0	(150.5)	-	0.5
消費量	145.2	150.4	156.0	(150.0)	-	3.7
輸出量	2.6	2.4	2.4	(2.6)	-	0.0
輸入量	2.6	3.6	3.2	(2.6)	0.3	▲ 11.1
期末在庫量	116.5	115.6	109.4	(110.9)	0.3	▲ 5.4
期末在庫率	78.8%	75.7%	69.1%	(72.7%)	0.2	▲ 6.6

(参考)

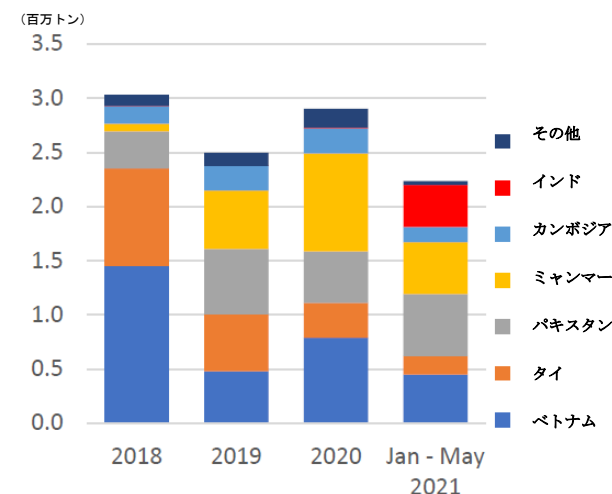
収穫面積(百万ha)	29.69	30.08	30.00	(30.30)	-	▲ 0.3
単収(もみt/ha)	7.06	7.04	7.10	(4.97)	-	0.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 July 2021)

IGC 「Grain Market Report」(24 June 2021) (単収は精米t/ha)

図: 中国のコメ輸入先と輸入量の変化



(注) 暦年のための表(市場年度7-6月)とは異なる。

資料: USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2021.7.12)

< タイ > モンスーンにより産地の土壌水分量が改善

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～同年12月)の生産量は、18.8百万トンと対前年度比6.2%の増加見込み。

同「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.7.13)によれば、雨期の初期は降雨が少なかったがその後モンスーンによる降雨が見られ、多くの地域では50～150ミリメートル近くの降雨量を記録し、この雨がちの天候によりコメへの水分供給が大きく改善された。

USDAによれば、2021/22年度(2022年1月～同年12月)の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比3.6%増の19.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比12.1%増の6.5百万トンの見込みとなり、ベトナムの輸出量(6.3百万トン)を上回り、インドに次ぐ世界第2位のコメ輸出国となる見通し。

タイ米輸出協会によれば、2021年1月から5月までの輸出量は、前年同期比31.0%減少の177.8万トン。輸出先国は、南アフリカ(23.9万トン)、米国(22.1万トン)、日本(14.5万トン)の順となっている。

USDA「Rice Outlook」(2021.7.14)によれば、7月5日までの週のタイ産米(長粒、2等丸米)の輸出価格は、6月7日までの週より38ドル/トン下落し434ドル/トンとなっている。

コメ・タイ

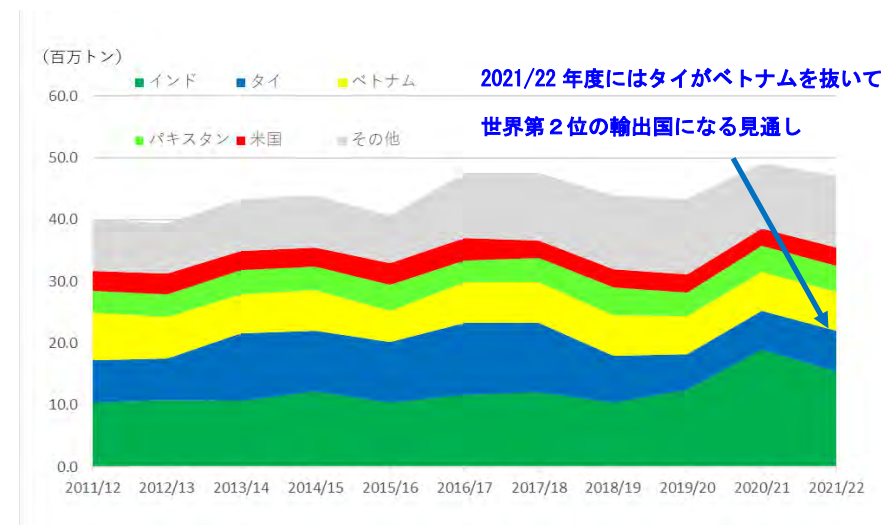
夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	17.7	18.8	19.5 (20.1)	-	3.6	
消 費 量	12.3	12.7	12.9 (12.5)	-	1.6	
輸 出 量	5.7	5.8	6.5 (7.5)	-	12.1	
輸 入 量	0.3	0.2	0.2 (0.3)	-	-	
期末在庫量	4.0	4.5	4.8 (7.2)	-	6.7	
期末在庫率	22.1%	24.4%	24.8% (36.0%)	-	0.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.89	10.40	10.50 (10.63)	-	1.0	
単収(もみt/ha)	2.70	2.74	2.81 (1.89)	-	2.6	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
IGC「Grain Market Report」(24 June 2021) (単収は精米t/ha)

図: 世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料: USDA「PS&D」(2021.7.12)をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > タイと輸出2位争いの一方、インド産を輸入

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～2021年12月)の生産量は、前年度と変わらず27.1百万トンの見込み。

2021/22年度(2022年1月～2022年12月)の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比0.7%減少の26.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比1.6%増の6.3百万トンの見込み。また2021/22年度の輸出量は前月予測からの変更はなく、前年度と同じ6.3百万トンの見込み。

一方で、2020/21年度の輸入量については、3月にインドから歴史的に0.25百万トンの砕米を輸入した報告を受けて上方修正された。インドからの輸入の傾向は今後数か月継続されると見られる。ベトナムの2021年のコメ輸入は、1976年以降で最大となる。

ベトナム税関総局によれば、2021年1月から6月の間のコメの輸出量は302.8万トンにのぼる。

USDA「Rice Outlook」(2021.7.14)によれば、収穫が終了した冬春作及び最近収穫が始まった夏秋作のどちらも6月に価格を下げた。ベトナム産米(長粒、砕米5%混入)は価格競争力が低いことから新規の需要が乏しいため、冬春作の6月29日までの週の価格は、6月8日までの週よりも15ドル下落し470ドル/トンであった。また、秋作の6月29日までの週の価格は、6月8日までの週よりも35ドル/トン下落し425ドル/トンであった。夏秋作は原則的に、雨季の降水量や高水分含有量による品質問題があるため、冬春作よりも低価格で販売される傾向にある。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	27.1	26.9	(28.3)	-	▲ 0.7
消費量	21.3	21.3	21.3	(22.6)	0.1	0.2
輸出量	6.2	6.3	6.3	(6.4)	-	-
輸入量	0.4	0.7	0.5	(0.6)	-	▲ 28.6
期末在庫量	1.2	1.4	1.2	(2.9)	0.1	▲ 14.0
期末在庫率	4.3%	5.2%	4.5%	(10.0%)	0.3	▲ 0.7

(参考)

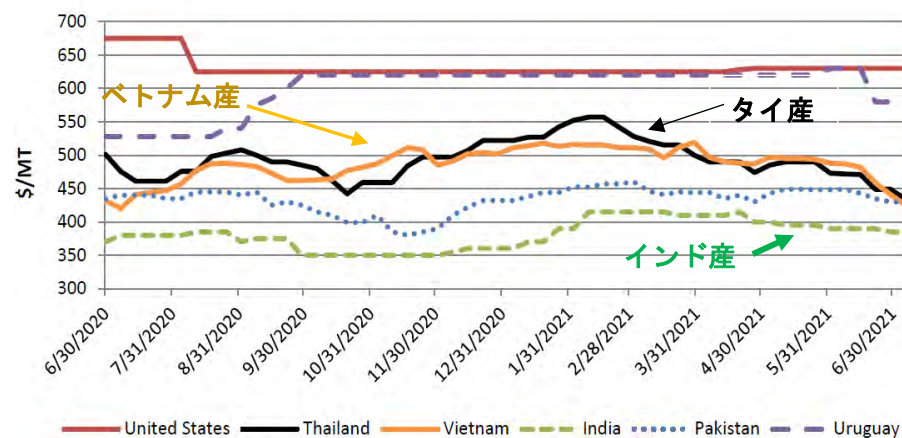
収穫面積(百万ha)	7.38	7.35	7.30	(7.45)	-	▲ 0.7
単収(もみt/ha)	5.88	5.90	5.90	(3.80)	-	-

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 July 2021)

IGC「Grain Market Report」(24 June 2021) (単収は精米t/ha)

図: 長粒種のFOB価格の推移



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2021.7.12)

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 前月比

・カナダで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

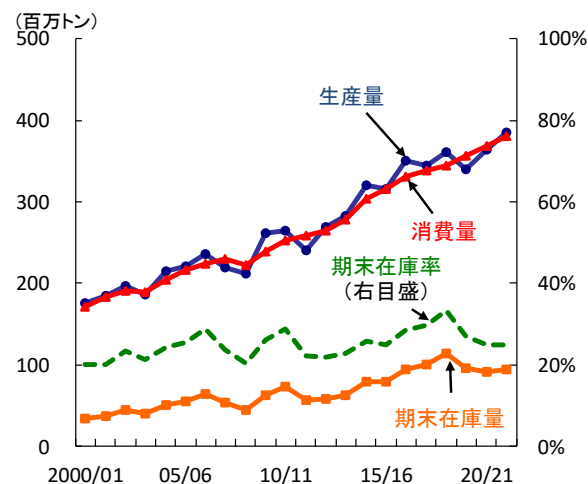
消費量 前年度比 前月比

・カナダ、インドで下方修正も、アルゼンチンで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・インドで上方修正も、カナダで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」（2021.7.12）をもとに農林水産省で作成

◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

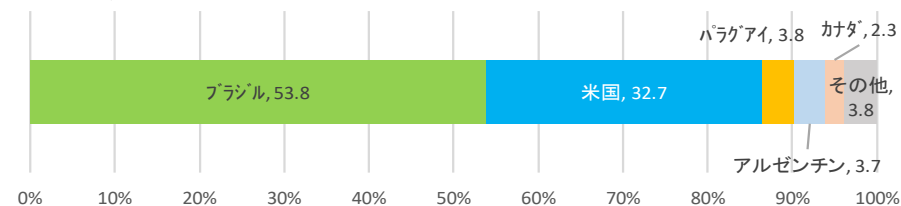
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	339.4	363.6	385.2	▲ 0.3	6.0
消 費 量	357.4	368.9	381.1	0.3	3.3
うち搾油用	311.5	322.0	332.0	0.4	3.1
輸 出 量	165.1	165.5	172.9	▲ 0.1	4.4
輸 入 量	165.0	165.8	171.7	▲ 1.0	3.6
期末在庫量	96.5	91.5	94.5	1.9	3.3
期末在庫率	27.0%	24.8%	24.8%	0.5	▲ 0.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 July 2021)

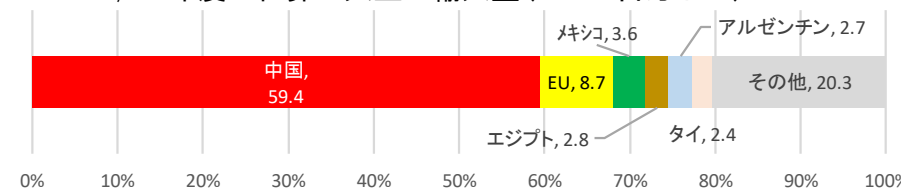
○ 2021/22 年度の世界の大豆の生産量 (385.2 百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸出量 (172.9 百万トン)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸入量 (171.7 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 収穫面積増で増産も輸出は減少見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、「作付面積調査」(2021.6.30) で面積に変更がなかったことから前月予測からの変更はなく、主に大豆価格の上昇を背景とする収穫面積の増加から前年度より 6.5%増の 119.9 百万トンの見込み。「Crop Progress」(2021.7.19)によれば、主要 18 州における開花進捗率は 63%と、前年度同期 (62%) 及び過去 5 年平均 (57%) より進んでいる。着莢進捗率は 23%と、前年度同期 (23%) と並び、過去 5 年平均 (21%) より進んでいる。作柄評価は、コーンベルト北西部の 5 月から 6 月上旬の高温乾燥の影響により、良からやや良が 60%と前年度同期 (69%) を下回っている。7 月から 8 月にかけての開花期から着莢期の天候に注意が必要。

【需要動向】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、大豆由来のバイオ燃料需要の増加により搾油用需要を中心に増加することから、前年度より 3.0%増の 63.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、期首在庫の減少に伴う供給量の減少及び国内消費の増加に伴い、史上最高の輸出量となった前年度より 8.6%減の 56.5 百万トンの見込み。

なお、USDA によれば、輸出検証高 (2021 年 1 月 7 日～7 月 1 日) は、18.3 百万トンであり、内訳は中国 (7.5 百万トン)、メキシコ (2.2 百万トン)、エジプト (1.4 百万トン)、インドネシア (1.2 百万トン) の順。

USDA によれば、2021/22 年度の期末在庫量は、前年度より 15.3%増の 4.2 百万トンの見込み。しかし、期末在庫率は 3.5%で依然として低水準となっている。

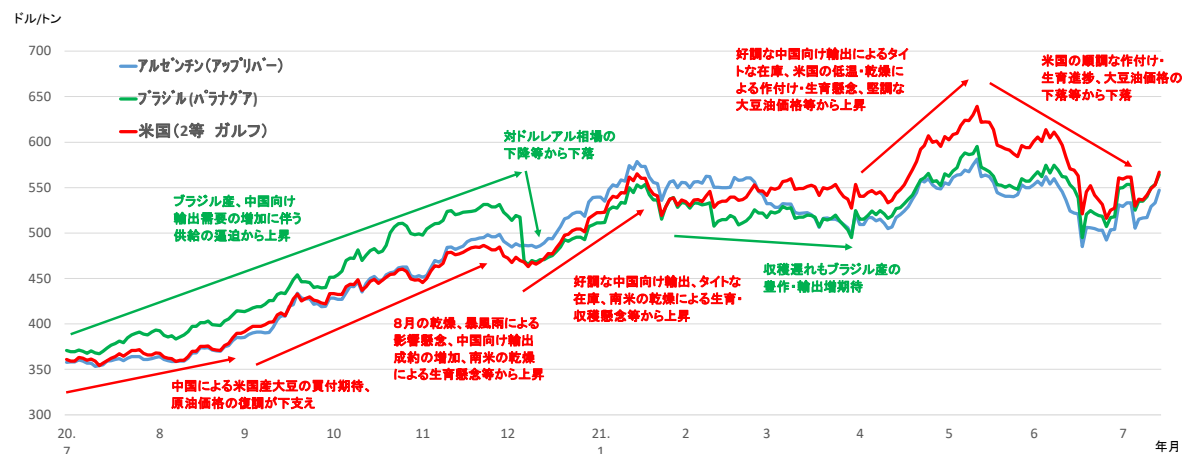
大豆－米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	96.7	112.6	119.9	-	6.5
消費量	61.9	61.9	63.8	-	3.0
うち搾油用	58.9	59.1	60.6	-	2.5
輸出量	45.7	61.8	56.5	-	▲ 8.6
輸入量	0.4	0.5	1.0	-	75.9
期末在庫量	14.3	3.7	4.2	-	15.3
期末在庫率	13.3%	3.0%	3.5%	-	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.33	33.31	35.09	-	5.3
単収(t/ha)	3.19	3.38	3.42	-	1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格 (FOB) の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 収穫面積増で増産、史上最高となる見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.1%増の144.0百万トンとなり、史上最高の見込み。本年9月以降に作付けが開始される。なお、2020/21年度の収穫は、主産地では終了している。

また、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.7.8)によれば、2020/21年度の実産量は、単収が前月予測からわずかに上方修正され、前年度より8.9%増の135.9百万トンで史上最高の見込み。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用消費量の増加から、前年度より1.9%増の50.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加と世界的な需要増から前年度より12.0%増の93.0百万トンの見込み。なお、2020/21年度の輸出量は、中国の大豆在庫が積み上がり、ブラジル産の輸入減少に伴い、前月予測から3.0百万トン下方修正され、83.0百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年6月の輸出量は11.1百万トンで、前年同月(12.7百万トン)に比べ13%減。2021年1～6月の輸出量は57.6百万トンで、前年同期に比べ2%減となっている。内訳は、1位が中国で39.8百万トン、2位がスペインで2.3百万トンとなっている。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2021年2月以降大豆の収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培。

2020/21年度	2020年												2021年								
	1月	...	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
夏とうもろこし	リオグランデ・ド・スル州等												収穫 24.9(百万t)								
	作付 4.4(百万ha)												→ 収穫夏冬計 93.4百万t								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 19.8百万ha ←												作付 15.5(百万ha)								
	マトグロソ州、パラナ州等												→ 収穫 68.5(百万t)								
大豆	作付 38.5(百万ha)												大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし播種 収穫 135.9(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート(2021.7.8)

大豆—ブラジル

(単位：百万トン)

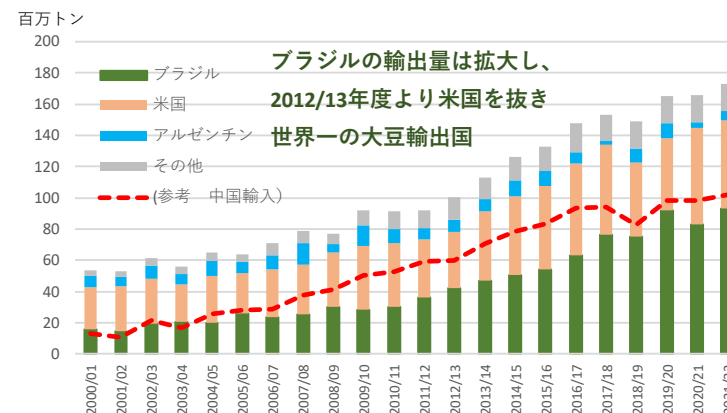
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	128.5	137.0	144.0 (141.3)	-	5.1	
消 費 量	48.7	49.4	50.4 (48.7)	-	1.9	
うち搾油用	46.0	46.8	47.7 (46.1)	-	2.0	
輸 出 量	92.1	83.0	93.0 (91.8)	-	12.0	
輸 入 量	0.6	1.0	0.7 (0.1)	-	▲ 35.0	
期末在庫量	20.7	26.3	27.6 (3.9)	3.3	4.9	
期末在庫率	14.7%	19.9%	19.3% (2.8%)	2.3	▲ 0.6	

(参考)

収穫面積(百万ha)	36.90	38.60	40.40 (39.90)	-	4.7
単収(t/ha)	3.48	3.55	3.56 (3.54)	-	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
IGC「Grain Market Report」(24 June 2021)

図：世界の大豆輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.7.12)のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 収穫面積増で増産見通しも輸出税継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より11.8%増の52.0百万トンの見込み。11月以降に作付けが開始される。なお、2020/21年度の収穫は6月下旬で終了した。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測から搾油用需要が0.5百万トン上方修正され、前年度より3.4%増の50.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より71.6%増の6.4百万トンの見込み。なお、2020/21年度の輸出量は、上流の干ばつによるパラナ川の水位低下から輸出港の穀物輸出能力が制限されるため、前月予測から2.7百万トン下方修正され、3.7百万トンまで落ち込む見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021年1～5月の輸出量は1.4百万トンで、前年同期（3.1百万トン）より55.5%減。内訳は、1位が中国69.5万トン、2位がエジプト45.6万トン、3位がチリ4.1万トンとなっている。引き続き、パラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月から2020年3月にかけて、大豆、大豆油、大豆粕の輸出税を約25%から最大33%へ引き上げ、現在も継続中。

大豆ーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	48.8	46.5	52.0 (50.0)	-	-	11.8
消 費 量	45.9	48.7	50.4 (47.5)	0.5	-	3.4
うち搾油用	38.8	41.5	43.0 (40.7)	0.5	-	3.6
輸 出 量	10.0	3.7	6.4 (7.2)	-	-	71.6
輸 入 量	4.9	4.7	4.7 (4.9)	-	-	-
期末在庫量	26.7	25.5	25.5 (4.3)	1.7	-	-
期末在庫率	47.8%	48.7%	45.0% (7.8%)	2.5	▲	3.7
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.70	16.60	17.20 (17.35)	-	-	3.6
単収(t/ha)	2.92	2.80	3.02 (2.88)	-	-	7.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(12 July 2021)

IGC「Grain Market Report」(24 June 2021)

写真：北部サンタフェ州の大豆の貯蔵施設と施設内の
サイロバックでの貯蔵風景

(7月5日撮影)

貯蔵施設の容量を上回った分をサイロバック
で保管している。



< 中国 > 収穫面積減で減産見通し、輸入量は約1億トン

【生産・生育状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.1%減の19.0百万トンの見込み。

なお、中国中央气象台（2021.7.9）によれば、黒竜江省等東北地区は、播種期以来良好な天候に恵まれ、7月上旬現在、三葉期から開花期に入っている。

【需給動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油マージンの悪化等により過去10年間に比べて消費量の増加ペースはペースダウンするものの、搾油用需要の増加から、前年度より4.5%増の119.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、中国国内の大豆備蓄が高水準となり、輸入量が搾油ペースを上回っていることから、前月予測から1.0百万トン下方修正されたものの、前年度より4.1%増の102.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～5月の輸入量は38.2百万トンと、前年同期比で12.8%増。内訳は、米国産21.5百万トン（56%）、ブラジル産15.7百万トン（41%）。なお、遅れていたブラジル産大豆の収穫・出荷の進展に伴い、5月の輸入量はブラジル産が9.2百万トンと96%を占めた。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報5月号」によると、5月前半、米国のCBOT大豆価格は16ドル／ブッシェルを突破し、2012年9月以来の最高水準に達し、国内大豆先物（国産大豆）の上昇を引き起こした。こうした中で、政府系企業による備蓄用国産大豆の買付が開始され、国内大豆価格が上昇した。5月後半、海外先物価格の下落等により国内大豆先物価格が下落し始め、気温が上昇するにつれ、大豆製品の保管が困難になるため、工場での加工量が減少し、低調な需要により、価格が下落に転じた。結果として、5月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は前月と変わらず、6,080元／トンで依然高水準である。一方、5月の国際価格（山東省の輸入大豆価格）は4,740元／トンと前月から大幅に上昇し、内外価格差は縮小した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

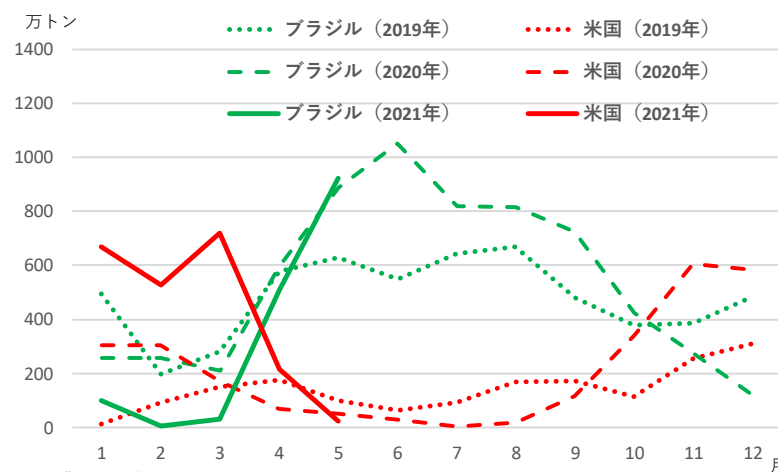
大豆－中国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	18.1	19.6	19.0 (18.7)	-	▲ 3.1
消 費 量	109.2	114.5	119.7 (121.8)	-	4.5
うち搾油用	91.5	96.0	100.0 (102.6)	-	4.2
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
輸 入 量	98.5	98.0	102.0 (104.5)	▲ 1.0	4.1
期末在庫量	26.8	29.8	31.0 (35.2)	▲ 3.0	4.0
期末在庫率	24.5%	26.0%	25.9% (28.9%)	▲ 2.5	▲ 0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.30	9.87	9.60 (9.35)	-	▲ 2.7
単収(t/ha)	1.95	1.99	1.98 (1.99)	-	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
IGC「Grain Market Report」(24 June 2021)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

< カナダ > 高温乾燥の影響懸念も東部の降雨で緩和

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、主に収穫面積の下方修正に伴い、前月予測から0.3百万トン下方修正され、前年度より3.9%減の6.1百万トンの見込み。

カナダ統計局「Principal field crop areas, June 2021」（2021.6.29）によれば、世界的に旺盛な大豆需要と高価格に反応し、作付面積は前年度より4.9%増の2.15百万ヘクタールの見込み。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2021.7.13）によれば、6月以降カナダでは乾燥状態が続いていたが、大豆生産面積の約7割を占める東部カナダのオンタリオ州、ケベック州では7月上旬に降雨があり乾燥の影響が緩和された。一方、西部カナダの平原3州では、7月に入っても、高温・乾燥が継続し、土壌水分量は不足している。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」（2021.6.18）

によれば、2021/22年度の生産量は、高い大豆価格に支えられ、主産地のカナダ南東部オンタリオ州を中心に作付面積が増加するものの、前年度の高単収より低い過去5年平均単収を前提にすると、前年度より2.1%減の6.2百万トンの見込み。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の下方修正に伴い、前月予測から0.2百万トン下方修正され、前年度より5.5%減の2.6百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の下方修正に伴い、前月予測から0.1百万トン下方修正され、前年度より11.4%減の3.9百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2020/21年度(2020年8月～2021年7月)の2020年8月～2021年5月の輸出量は359.4万トンで、国別では、イラン(86.3万トン)、イタリア(38.6万トン)、アルジェリア(35.6万トン)の順。

大豆ーカナダ

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.1	6.4	6.1 (6.2)	▲ 0.3	▲ 3.9
消 費 量	2.5	2.7	2.6 (2.3)	▲ 0.2	▲ 5.5
うち搾油用	1.7	2.0	1.9 (1.8)	▲ 0.2	▲ 7.5
輸 出 量	3.9	4.4	3.9 (4.5)	▲ 0.1	▲ 11.4
輸 入 量	0.3	0.4	0.4 (0.4)	-	14.3
期末在庫量	0.7	0.3	0.3 (0.2)	▲ 0.1	1.5
期末在庫率	11.3%	3.8%	4.3% (3.3%)	▲ 0.6	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.27	2.04	2.10 (2.16)	▲ 0.10	2.9
単収(t/ha)	2.71	3.11	2.90 (2.88)	▲ 0.01	▲ 6.8

資料: USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(12 July 2021)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(18 June 2021)

写真: 西部サスカチュワン州の大豆ほ場風景
(6月30日撮影)



(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	21年6月～22年5月	21年9月～22年8月	21年8月～22年7月	21年9月～22年8月
カナダ	21年8月～22年7月			21年8月～22年7月
豪州	21年10月～22年9月		22年3月～23年2月	
EU	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		
中国	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月
ロシア	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		21年9月～22年8月
ブラジル		22年3月～23年2月	22年4月～23年3月	21年10月～22年9月
アルゼンチン	21年12月～22年11月	22年3月～23年2月		21年10月～22年9月
タイ			22年1月～12月	
インド	21年4月～22年3月		21年10月～22年9月	
ベトナム			22年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2021 年 7 月中旬までに発表した情報を引用しています。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020 年 1 月 31 日付けで EU を離脱しました。英国の小麦に関する情報については小麦の EU27+英国のコーナーで取り扱います。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--

